京城日報

四日夕刊

發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社

# 總督示達

## 中樞院會議に於て

三日總督府中樞院會議に於て寺內總督の爲せる示達左の如し

新政施行以來既に五年の星霜を經過し、朝鮮經營の事業は其基礎略確立し、昨秋開催せる共進會の狀況に徵するも格別の支障を見ずして所期の効績を收むるを得たるは本總督の各位と倶に欣快とする所なり、然れども朝鮮の經營は其步を進むるに隨ひ益々複雜に赴き、政府の施設計畫にして一般人民に周知せしむるの必要あるもの更に多きを加へむとす、而して其趣旨の徹底を圖るに於て各位の斡旋に俟つ所亦鮮しとせず、是れ從來會期を定めざりし本院の例會を毎月一回とし早を趁うて各位に示達するを便宜と認めたる所以なり、各位能く此意を體し、至誠以て國家の爲に應ずの力を竭されむことを望む

新春の初に於て本總督は特に諭告を發し、既往五年間に於ける實績を略叙し、倘其成果に鑑み將來に對する要望を披陳したり、併合の當時至仁の叡旨を奉じ施政の大綱を定めて之を宣明したるは各位の能く記憶する所なる可し、爾來鳥兎匆々既に五年を經過せり、其間に於て本總督は誠意を傾けて豫期の計畫を遂行することに勉め時に心到りて力及ばざるの憾なきに非ずと雖も、赫々たる皇威と熱誠なる官民の努力とに倚り今日の成績を擧るを得たり、乃ち竊に言約を履踐して民を欺くの譏を免れたるを歡ぶと雖も是れ唯々創業の効果を收めたるに過ぎず將來の大成を期せむとせば更に一層の奮勵を要するが故に、自ら戒むると共に一般官民の警醒を促さむとし、其要旨を擧げて諭示したるなり、蓋し小成に安むじて安逸を念ふは人情の常にして往々九仭の功を一簣に缺くものあるは之が爲なり、是れ治者と被治者とを問はず今日に於て大に戒心す可き所たり、殊に政府にして如何なる良法美制を施行するも人民に於て其運用に順應するに非ずむば到底所期の目的を達するに由なかる可し、是れ本總督の毎に官民一致を唱導して止まざる所以なり、各位宜しく諭告の眞意を諒とし、其徹底上遺憾なからむことを望む

想ふに教化は政務の要道なり本總督の教育を重視する一日の故に非ず、新年の劈頭教員心得數條を列擧し、以て子弟教訓の綱領を示したり、抑我帝國は上に萬世一系の皇室を奉戴し、下に忠良なる臣民ありて世界に比類なき國體を成せり、故に帝國臣民たるものは常に盡忠報國の大義を恪守して萬古不易の皇猷を翼賛し國運の發展を稗補せざる可からず是れ實に帝國臣民の本分にして我教育の大本亦茲に存す、凡そ忠孝は人倫の基にして百行の源なり、故に教育は忠孝を本として德性を涵養するより先なるはなし、忠誠孝順能く臣子の本分を知る者にして始めて身を立て家を治め以て國家に貢獻することを得可し、又教育の要は實用的の人材を育成し國家の需用に應せしめむとするに在り、故に專ら實用を旨とし、智識技能の啓發修練に務めざる可からず、徒に空論に走り世用に遠かるが如きは最も戒む可き所なり、而して此等は主として教育の任に當る者の特に留意す可き點なりと雖も父兄たる者亦教育の本義を了會し以て子弟を教養するに非ざれば其目的を達することを得ず、殊に內地又は外國に於て修學する者の歸家せる後に於ける言動往々にして常軌を逸する者あるは極めて遺憾とする所なり、各位は須く此趣旨を體し世の父兄たるものをして適切に其子弟の處世方面を指導せしめ、以て育英の本旨に副はしむることに留意す可し。

近年鑛業の發達顯著なるものあるに鑑み現行法規を改正するの必要に迫りたるを以て新に鑛業令を發布し遠からず之を實施せんとす、而して新令に於ては鑛物の種類に付き更に十一種を加へ、在來の十七種と合せて二十八種とし、總て鑛業令の支配を受けしむることゝせり、是れ舊法制定の當時に比し鑛物の新に發見せられたるもの多く隨て鑛業の範圍擴大したるを以てなり、舊法制定の際は國に於て鑛業を經營するに至らざりしを以て之に適用す可き規定なかりしも新令に於ては國に適用することを得ざる二三の箇條を除き之を個人經營の場合と同一に取扱ふことゝせり、又鑛業權の享有は從來國籍の如何を問はざりしが既に許可せるものゝ外帝國の臣民又は法人に非ざれば之を享有するを得ざることゝなれり、蓋し多數の列國は國產保護の目的を以て外國人の鑛業權享有を認めず且つ內地施行の鑛業法に於ても同樣の方針を執れり、是れ此改正を加へたる所以なり、又鑛業權を物權とし其登記制度を設け、其他鑛業の爲め土地の收用を許したる等、新令の舊法に異る要點なりとす、此等の改正は皆時運の進步に伴ふ必要に應じたるものにして國家當然の利益を擁護すると同時に鑛業者の利便及び安全を圖らむとする旨趣に外ならず

## ◎露國首相愈更迭

### 後任はシュチュルメル氏

露國首相ゴレムキン氏が三回目の辭表を提出したる事發表せられたり同首相の後任ボーリス、ヴラジミロヰッチ、シュチュルメル氏はゴレムキン氏の親友にして曾てプレーヴェ內相の下に內務省の一官吏として名聲を走せたる人也新聞紙は一般に新首相の施設が前首相よりも更に進步的なる可しとは豫期し居らず新首相は政府と議會とが和衷協同して事に當らんことを希望せる旨の宣言書を公にせり但し議會召集の期日に就ては何等語る所なし(露都電報)

## ▲新首相對戰局策

露國新首相に擬せられつゝあるシュチュルメル氏は其執る可き政策に就き發表して曰く余も亦戰爭をして飽まで有終の美を遂行せしむるこいふ唯一の理想を辿りて進む可きのみ斷じて單獨媾和の提議に耳を借す事無かる可し蓋し單獨媾和は決して一切の問題を解決せしむる所以にあらざればなりと(露都電報)

## ◎ル號擊沈事件解決せん

ルシタニア號擊沈事件は愈々獨逸の一部的謝罪に由りて解決せんとする者の如し即ち獨逸は同船の無警告擊沈は復讐として當然の行爲と認むれど米國人の生命に危害を加へたるは不法行爲として謝罪し且つ賠償す可しといふに在り獨逸が斯く讓步的態度に出でんとするは米國の感情を和げ置き數箇月內に媾和の爲め盡力せしめん下心ならんと觀測さる(紐育電報)

## ◎土皇儲自殺の原因

土國皇太子自殺說は既電の如くなるが皇太子は政府と意見合はず自殺したるなりとの說あり(東京電報)

## ◎研究會愈決戰態度

研究會は豫算中第一分科會(大藏)に於ては鐵道資金二千萬圓を削除する事に決し愈々決戰の態度に出でたりと傳へらる(東京電報)

## ◎政界の前途暗澹

山縣元帥の斡旋に依り平田氏は政府に對し別に二千萬圓を募債し上院の面目を立て豫算通過妥協案を提出せり然かも道は憲法違反となり政界前途益々暗澹たり(東京電報)

## ◎分科會終了期

貴族院各派は態度を協商し五日分科會の廢部を全部決議する筈也(東京電報)

## ◎岡陸相の避寒

岡陸相は小田原へ避寒せり(東京電報)

## ◎伊國大使危篤

東京駐剳伊太利大使は客月二十七日夜大使館に於て突然昏倒し爾來加療大に努めつゝありしは既電の如くなるが容態益々危篤に陷れり(東京電報)

## ◎久原鑛業所大發展

久原鑛業所は一躍して三千萬圓に增資し大發展を圖る可しと(大阪特電)

## ◎コール下向

市場に於ける資金回收コールは下向となりたり(東京電報)

## ◎京奉運轉休止

四日は舊正月元日に付京奉線にては瀋陽驛午前九時三十五分發の一列車だけを運轉し外は運轉を休止せり(奉天特電)

## ◎慰問使著京期

朝鮮駐剳軍御慰問のため侍從武官若見少將を御派遣に相成る事は東電既報の如くなるが同慰問使は來る十一日落京の筈なり

## ◎一部長會同(第四日)

各道第一部長會同第四日は前日に引續き四日午前十時より總督府第二會議室に開會、第一部長一同は勿論總督、山縣政務總監、各部長官、局長、課長等出席し各道縣政務の狀況報告を爲したるが當日は諮問事項の答申を了するもの少からざりしを以て之が日程を變更し指示及び訓示は五日に延期となりて午後三時散會したり

## ◎御眞影下賜 慶尙北道

北道管內各學校に御下賜せられたる御眞影は四日總督府より之を奉じて大邱に向け出發せり

## ◎總督茶話饗應

寺內總督は五日午後四時より入京中なる各道第一部長をはじめ同會同關係者一同を官邸に招き茶菓の饗應を爲す由

## ◎第一部長招待 大塚、澤田

[illegible]の內務部各課長發起となり六日午後六時半より第一部長會同列席の爲め入京中なる各道第一部長を花月に招待し懇親會を催す由なるが總督府よりも多數の列席者を見る可し

## ▲鮮銀招待宴

朝鮮銀行にては東拓會社と聯合して目下入京中なる各道第一部長を招待し四日午後六時より南山町花月に於て晩餐會を開催す

## ◎長官會議休會

四日は定例長官會議日たりしも第一部長會議開催の爲め休會となれり

## ◎師團副官會議

來る六、七の兩日師團司令部に於て第九師團管下の副官會議を開く可しと

## ◎組合銀行總會

京城組合銀行にては四日午後六時より銀行集會所に於て總會を開き役員改選を行ひ終つて諸種の打合を爲したり

## ◎消防隊全員召集

隈部京畿道警務部長は四日午前十一時京城府內の常備消防隊全員を警務部に召集し訓示點檢諮問等をなし午後一時散會したり

## ◎仁川商議評議員會

仁川商業會議所にては三日午後一時より同所樓上に於て第二次評議員會を開會したるが評議員二十六名出席奧田會頭議長席に著き大正五年度同所豫算及び課金賦課徵收方法に付き協議し其の結果秘密會に附すことゝなせり

## ▲秘密會後續行 仁川商業

會議所第二次評議員會三日開會せることは既記の通りなるが尙秘密會後引續き賦課徵收方法に付凝議せるが議員は委員會修正說と原案贊成說との二派に分れ盛んに議論を戰はしたるも結局多數決に依ることゝせるが委員會修正說派十一原案贊成說派十二といふ對照にて後者の說を採ることになり支出の部給與費三千二百圓を二千五百四十圓と修正し印刷費五百六十圓を四百八十圓に減じ尙ほ豫て設置の件を否決したる商品見本陳列場は凝議の結果十四票對十票といふ點にて遂に設置する事に決定せり又賦課徵收上新に細則を定むることゝなり九名の委員を選出して委員會を開き然る後評議員會を招集して報告することゝし三日夜十一時三十分散會せり

## ◎地主會の事業

平安南道各郡に於ては目下地主會模範會同小作人表彰、種業組合總會等を催し道よりも主任技師張參與官等臨席しつゝあるが本年度の事業は大體次の如し、大正五年度廳內各地主會に於ける水稻栽培の改良發達を圖る可く水稻立毛品評會を各所に催して一般耕作上の智識を增進せしめ優良種子作付獎勵として水稻日の出陸稻オイランの二種を購入し配付或は交換をなし以て優良種の普及增殖を計る可く其他採種田の設置、製造傳習及び農事講話會小作人表彰農具購入貸付模範堆肥舍設置及び獎勵換範水稻苗付設置及獎勵等重なる事業なるが大正四年の事業成績に徵するに採種田設置の結果日出(水稻)六角シュバリエ(大麥)カリフォルニヤ(小麥)平壤種(大豆)等の種子を收穫し小作人に配付貸付又は交換したるを以て優良種の普及は豫期以上に達したる而已ならず副業の獎勵一般小作人の農事上の智識啓發稻扱器製莚器石拔籾摺器等の普及は頗る見る可きものあり(平壤)

## 淸州

### ▲忠北貯蓄組合狀況

曩に忠淸北道各郡各面に納稅貯金組合の設立せらるゝや勸勉なる地方農民は或は勞役又は副業によりて得たる零碎の金錢を集め之に依り第二期地稅の納入をなさんとて同組合に預入しつゝあり今一月十五日現在の同組合情況を見るに組合總數百〇四組合人員十萬二千餘人金額十六萬一千餘圓に達し第二期稅額の五割八分に相當する由

▲淸州派留多界 來る十一日の紀元節を卜し我が淸州支局主催の歌留多大會を催せらるゝや淸州斯界は俄に活氣立ち我こそ當日の月桂冠を得んものとて各選手の練習頗る激烈を極めつゝあり中にも曾頂官員十數名の練習振りは目醒しく之に對抗せんとて立ちたる民間選手の面々は中島氏を中心として每夜十二時過ぐる頃迄出頭男ましく練習に勵み居れば當日の盛況刮目すべきものあらん

△△△△△△△ 忠州かるた大會 △△△△△△△

我社淸州支局主催の下に來る十一日の紀元節を卜し北一棟大廣間に於て忠淸かるた大會を催さんとす地方選手の奮つて應ぜんことを望む

會費 金五十錢夕食を供す
申込所 淸州本町三丁目支局宛
時日 二月十一日正午より
來れよ選手○○○○ 主催 京城日報淸州支局

## 大邱

### ▲桑樹植栽出張監督

慶北道に於ては全鮮に於ける特種發展地たらしめんとて桑樹植栽實行に就ては屢々道の吏員を派遣し是が監督に遺漏なきを期しつゝありしが今や各郡共就れも豫定の工程を了し準備の完成を見るに至りたるを以て更に此際實行各郡を五區に分ち夫れ〳〵部署を定め嚴重なる監督を加へ本事業の遂行に遺憾なきを期せんとし左記の如く專任監督官吏及び受持部署を定め第四、第五區は四日より監督の爲め吏員出張せり

▲第一區 達城、高靈 李慶北道長官監督▲第二區 永川、慶州、迎日 入澤第一部長又は吉村第二部長監督▲第三區 淸道、慶山 岸技師監督▲第四區 軍威、義城、安東 矢島試補監督▲第五區 漆谷、星州、金泉、善山、尙州 中參與官監督 因に第四區は小賀野道技手、第五區は松井道技手同行する事に決せりと

▲慶北產業講話會 慶尙北道にては昨年以後產業實施の目的を達せしめん方針にて夫れ〳〵準備中なりしが愈々左の日割順序にて第一回巡廻講話をなすべしと

▲(岸技師中川技手擔任)二月九日慶山郡▲十日淸道郡▲十一日高靈郡▲(中參與官、常松、本谷、松井技手擔任)九日漆谷郡▲十日星州郡▲十二日金泉郡

▲慶北穀物組合總會 慶北輸移出穀物改良組合には來る十五日評議員會開會十六日引續き評議員會及び檢査員會議十七日には總會を開會し同業組合令發布の結果改良組合は一應解散し慶北穀物同業組合と命名すべしと

▲兵營敷地醵金納者 大邱 兵營敷地買收醵金は既に七千二百三十五圓三十錢に達せしがなほ一月二十七日より二月二日に至る既納者堀池常治外五十七名小計千百六十九圓五十錢通計八千四百四圓八十一錢に達せり

▲大邱高女寄附既納 大典記念大邱高等女學校敷地買收寄附金は其後著々納入しつゝあり最近既納者吉村鎭雄氏の四十圓を筆頭として九名小計百十四圓五十錢通計五千七百七十五圓七十錢に達せり

▲榮川醴泉道路竣工 慶北醴泉より榮川邑に達する六里半の路線は三間幅にて昨年來改修中なりしが愈々去一日全部竣工し自動車を通じ得る路線となれり

▲尙武會證書授與式 大邱尙武會は二月六日を以て寒稽古終了せしを以て同時に納會及び精勤證授與式を擧行する筈

▲伊藤道書記榮轉 慶北道書記伊藤諧隆氏は今回總督府道書記を辭し內務省關に轉任する事に內定せりと

▲支局主催狩獵會 本社慶北支局主催にかゝる春季狩獵大會は愈々來る六日倭舘を中心として開催すべく申込者四十餘名に達し大村、仙波、金島山驛長、前田、松本、佐藤、九島の諸氏より金品の寄贈あり本社よりは銀メタル當支局より淸酒五升を贈りたるが好獵家の元氣旺盛なり

## □客中より　中島生

大田驛にて釜山急行と別れ、待つこと半餉、午後一時木浦行列車に乘り發す。湖南初めての旅、心からにや景物の幾分異るあるを感ず。佳水院川に沿ひ、山脚を縫ひ、嶝交々河岸に迫る間を曲折し、豆溪驛を過ぎ、鷄龍山の支脈を横斷すれば、地勢次第に緩かに、院項川を渡れば即ち江景の平野也。錦江流域二十五方里の沃野遠く展開し、四顧眼を遮るものなく、但だ碧山の遠く微かなるを望むのみ。此邊一帶の景趣宛然余が故郷筑後川畔の平野に似たり。江景の町は一見內地の町に似て、有繫米の集散地丈けに鮮人の家も新たに葺き更へたるが多し。裡里着は四時半。(二日裡里驛にて)

□□□□□□

裡里より群山支線也。此驛はもと一寒村、湖南線の開通によりて今日の發達を見る、而して輕鐵を以て全州に連絡す。其將來は甚だ有望なるを疑はず。汽車は有名なる全北の平野を驅る所在に大規模の農場を見る。水利事業の發達せる地方なれば溝渠縱横に通じ、春水畦畔に滿てり。江行舟渡、白鷺の群を見る。殘照暮靄、旅思悠々たり。群山港の海風敢て寒からず。(二日夜群山旅館にて)

## 釜山

### ▲水產傳習所設置か

慶尙南道大正五年度の豫算を以て朝鮮水產の中心地たる釜山牧の島に水產傳習所を設置し水產業に幼稚なる鮮人及び內地人に漁撈、養殖及び製造等を教授する目的を以て道廳に於ては籌議調査の上創設費一萬五千圓乃至二萬圓を投ずべき計畫にしてこれが補助を國庫に仰ぐべく既に申請中の由なり從來道の地方事業として又恩賜授產事業として水產に支出せるは總額一萬圓にして重に海苔養殖補助及び製造傳習其他漁撈傳習に投ぜしも大正五年度には海苔製造傳習は廢止し水產傳習所費に支出すべく變更する由なり

▲大典記念事業 釜山府にては御大典記念事業をして高遠見水源地に造林の計畫ありしが愈春季に向へば黑松苗六十一萬本植ゆる筈にて來七日右苗木購入入札に附する由

▲練習艦隊入港 松村司令官の指揮せる練習艦隊磐手、吾妻は二日午後鎭海灣に入港せり

▲商議役員會 釜山商業會議所にては三日午後二時より商品陳列所樓上に役員會を開き一、鑛產館新築工事に關する件一、南濱所有土地賣却處分の件一、新會議所發起人會に關する件等を附議せり

## 木浦

### ▲棉花販賣所閉鎖

本道各郡の棉花販賣所は長興康津の一部莞島珍島及び務安木浦の數箇所を除き他は悉く昨一日迄にて閉鎖したり

▲一月中の檢米 木浦米穀檢査所に於ける一月中の檢査數は大正四年產米一萬八千七百七十九叺此內優等六十叺上格千六百五十八叺下格一萬六千九百八十六叺不合格七十七叺再調百六十九叺受驗人員百五十五人にして此外大正三年產米五百八十一叺此內上格百四十八叺下格四百七十三叺不合格五叺にして何れも移出地は大阪なりと

▲一月木浦驛成績 一月中の營業成績は乘客四千二百八十七人降客三千八百〇八人客車收入五千四百十二圓七十錢貨物發送八百七十二噸五到著千四百十二噸七十三貨車收入二千六百二十九圓十一錢合計收入六千六十九圓六十五錢なりと

▲太田校長來木 京城女子高等普通學校長は一月三十一日來木小學校に於て講話あり當夜は教育關係者其他有志の來聽二百餘名頗る盛會にて同十一時散會したり

## 人事消息

▲三浦彌五郞氏(米國大使館附參事官) 三日午前內地より釜山上陸馬山へ
▲谷村正友氏(滿鐵運輸課長) 同上龍山へ
▲金子猪三郞氏(步兵中佐) 同上龍山へ
▲富田儀作氏(鎭南浦商議會頭) 同上鎭南浦へ
▲岡部安穗氏(鎭山組理事) 四日入京浦尾へ
▲小田省吾氏(編輯課長) 黃海道管內へ出張中の處一日歸任
▲井口省吾中將(軍司令官) 南鮮地方視察の爲め三日出發釜山へ
▲矢島軍醫監 部隊衞生の爲め一週間の豫定にて六日慶南へ出張
▲城際軍少佐(朗城守備隊長) 步兵卅五聯隊の勤年兵教育狀況視察の爲入京中の處四日歸隊
▲村上順氏(東拓會社) 三日夜歸任
▲竹內鋭彥氏(三井物產支店) 本店詰となり十日頃赴任の筈

## 臺灣沖の大地震か
### 仁川觀測所の地動計の記錄

二月一日午後仁川觀測所に於て地動計及び微動計にて遠地に起れる大地震を記錄せり、今その狀況を記せんに震動は同日午後四時三十八分四十秒稍々著しき初期微動に始まり三分廿七秒間の後主要動に移り同午後四時四十三分廿五秒に至り震動最大となり全振幅三粍餘に達せり、爾後數回稍々顯著なる震動を現したるが其後漸次衰弱して午後六時三十二分頃全く靜止せり尙ほ本震動の現れたる以前午前十一時二十四分二十七秒にも微細なる波動を現出したるが兩者共振動の狀況相類似するを以て見れば同一震源より發せるものゝ如く仁川觀測所の推算によれば震源地は仁川の西南を距る約二千三百キロメートルの地點にあり因に仁川より二千三百キロメートル(約五百里)の地點は臺灣の少し南方に當れども今日まで何等異變の報せられざるは多分海中に起れる大地震なるべし

## 地久丸引卸の見込
### 遭難者五百餘名の元山到着

三十一日城津沖にて坐礁せる地久丸の遭難者五百餘名は四日午前十時金羅丸にて元山に到着せり乘組員の談に據れば地久丸の損害は輕微なれば今後暴風雨襲來することなくば引卸しの見込十分あり(元山特電)

## 山東鐵道の警戒物々し

當地支那官憲は愈々神經過敏となり近來山東鐵道沿線主要驛の附近地方界隈に數名の巡警を派し支那人の乘降を捕へ一々檢査をなし少しにても疑はしき者入り込む場合には巡警等其の後を尾行して其者が同地を出立するまで嚴密に監視し居れり(濟南特電)

## 小銃二十餘挺强奪
### 馬賊深夜長泡子警察を襲ふ

安東縣支那管內なる九連城附近の長泡子に駐在せる五龍背警察署を兩三日前暗夜に乘じて馬賊二十餘名襲擊せり不意を喰ひし巡警等は非常に狼狽をなし何れも恐怖の餘り銃器彈藥を放棄せる儘身を以つて免れ一目散に九連城へ向け敗走したり賊は最初幾分か巡警の對抗あらんかと豫測し發砲したるも巡警の逃走せるより署內に闖入し掠奪を始め銃器二十餘挺を强奪し悠々として同地を引揚げ北方に向ひ姿を晦ませり急報に接し鳳凰城巡防隊にては直ちに討伐準備したるも遂に賊を逸し目下嚴重搜索中なり(安東縣特電)

## 西砲臺上の露と消ゆ
### 上海亞細亞日報を爆破せる肅美臣

當地亞細亞日報館の爆彈事件嫌疑者なりし肅美臣は愈々過日支那側に引渡され護軍使署にて審問を受けたる結果同人は當地に秘密機關を設立し革命黨員一萬數千人を募集し同黨員許寅午と協議の上楊玉橋をして亞細亞日報館に爆彈を投せしめたる者なる事判明せり因つて護軍使署は一聯統率辦事處に其旨申告し西砲臺に於て死刑に處したり(上海特電)

## 支那官憲爆竹を禁ず
### 時節柄銃聲に似て危險との理由

當地方支那人は每年舊正月に際し盛に爆竹を放つ慣例にて本年も各所に爆聲を聞く可く豫期し居たるが支那官憲は之を嚴禁する旨各警察署を經て布達せり其表面の理由としては火災の憂有るを以てなりと云ふも內實は時局に鑑み地方の靜肅を保たん爲に外ならず爆竹は恰も銃聲の如く響くを以て若し萬一叛亂の突發する有るも之を識別するに不便なるも一の理由なり支那街に於ては右布達の有りて以て爆聲を絕てるが外國租界に居住せる支那人は引續き爆發せしめつゝあり(安東縣特電)

## 長春製材所燒く

三十日午前二時頃附屬地北長春地木材製材所[illegible]にて出火し[illegible]容易に消火ずるを得ず遂に二棟[illegible]

[illegible]員一同相計り本年一月四日より二月四日迄同所職員の實弟[illegible]

[illegible]所にては陽春三月の頃京都御大典式[illegible]參拜團を作り日數十[illegible]

[illegible]事務取扱[illegible]

[illegible]年十月二十二日債權者古川喜一郞の委任に依り新灘津憲兵派遣所執達吏[illegible]は無罪村洪[illegible]

[illegible]列席森檢事々務取扱立合の上朴榮緒[illegible]

[illegible]港高麗丸一二等客(一等)三名三浦彌[illegible](二等)二十名前山[illegible]谷村正友、英國人一名[illegible]

節分の朝

## 朝の間に出揃つた福豆二千袋
### 京城神社節分の修祓—夥しい參詣

舊正月と節分が重なつた四日は朝からからりと晴れて申し分のない詣日和だ、京城神社には例年の通り賑はい◇朝まだきから前夜に引つゞいての參詣者が冷めたい息を吐きながら詰めかけた、神殿には燈燈眩ゆく照り輝く大三寶に二千袋の福豆が盛られ、六時半頃から祭式があり谷村神官は恭しく福豆を修祓し氏子一同の息災延命を祈つたがその時刻から參詣の福豆を戴きに來る者が◇頗る多く十時過ぎに忽ち出拂つてしまつた參詣者は花柳界俳優藝人一般市中の人々用勘序での總督府職員など、氏子總代の中村再造、釘本藤次郎氏などが社務所に詰めかけてゐた

## 京都大學生放校さる

京都大學生笹田專造森本泰三龜田補二郞島本桃一は撞球屋にて賭博せし爲め放校處分となれり(京都特電)

## 大仁丸沈沒
### 林安丸と衝突

大阪商船大仁丸(千五百七十六噸)二日宜蘭沖にて支那汽船林安丸と衝突し沈沒せるに就き同社に達せし報に據れば船員七十五名乘客百十一名內救助されし者船長齋藤齋外船員乘客二十一名のみなりと(大阪特電)

## 財神苑の獐を嚙む

當地安東神社は長白產獐一頭を飼育しつゝありしが近來人に馴れ犬の如き檻を開けば靜かに神苑を逍遙して森嚴の氣を添へたりしが二三日前夜中怪しき物音を聞き附け直ちに檻を改めしに無殘にも其咽喉笛を嚙み切られて斃死したるを發見したり多分豹の襲擊を受けたるものなるべしと(安東縣)

## 牛、溜中で格鬪

三日午前三時半頃京城居留地場構內に繫ぎありし京城橋北洞洪鍾鎬及び明治町三義和所有の各一頭宛の牡牛脫走し裏手の畑中に於て角鬪しながら兩頭共附近の糞溜に墜落し居場より屠夫等駈付け二頭共引揚げ救助したるが鍾鎬所有の牛は幸うじて助かり義和所有の牛は遂に溺死したりと

## 電車の中で怪我

四日午後二時半頃京城電車の八十六號が西大門外より鍾路に向け進行中鍾路停留場附近に於て線路を橫切らんとせし者あるより急遽停車せし反動にて電車の入口に佇立せる西大門町二丁目の吳禹泳(四七)なるもの風外に跳ね出されたる途端輕傷を受けたるも會社側より手當をなして事濟みとなる

## 電車トロと衝突

本月二日午後一時十六分頃釜山左水營及び釜山鎭間に於て土砂專用列車と電車との衝突あり電車の乘客二名及び運轉手一名負傷したるも生命に別條なく電車は運轉手臺を一部破損したるのみなりと衝突の原因は規定の時間を間違へて運轉したるに依るもの也

## 大膽な女中の判決

既報主人の金八百圓及び金側時計を竊取せし大惡吳服店の女中今村しづ江(二十)の公判は三日釜山地方法院に開廷懲役一箇年の宣告を受く

## 不思議の墨西哥
### 安達公使の談

ウエルタ電話の挨拶—首都は宛ら京都—市街戰の慘況　我輩自ら强軍の兵と闘ふ

マンザニロの出雲艦訪問から墨都に歸へり著いた大正三年(一九一四)六月十五日頃既に各地に革命軍が蜂起して居た譯だが夫れから丁度一箇月目の七月十五日には流石時めいて居たウエルタ大統領も遂に革命軍の勢に抗ずべくもあらず

▽出奔—するに至つたわざ〳〵別れの爲めだとあつて電話で挨拶して來た時『時の勢ひ一時退却なさるのは又止むを得ない事ではあるが後の事は如何なさる?』と尋ねると『後はもう我輩の力では及ばぬ。貴下は貴下御自身で御護衞なさるより外は仕方がありませぬ』と云ふ次第だ此時の

▽戰況—も漸に細論してゐたが其後不

革命戰は總て同じ形式で一體墨都の市街は丁度我が京都の位置と相似て居る大なるものだが三方山を以て圍まれ一方が開けてゐる革命軍が襲擊して來る時は必ず山の後方からする一週間餘り山上を攻擊して愈々山頂を占領すると其時山上に籠つて或は水道を斷つたり或は電線を切斷したりしては

▽市街—を苦しめた上で愈々市街戰が始まる

と云ふ順序となるそして市街戰が數日間續けられ前後二週間もすると大抵陷落するウエルタは仲々頭腦明晰な豪宕な性質の人物で予も甚だ親交を續けたが時非にして外國に亡命し各地流浪の後聞けば頓にエル、パソの監獄で牢死したと云ふ事だが實に氣の毒に堪へない彼のデラバラの如きも

▽巴里—の空で今は見る影もない慘たる生活をしてゐるとか云ふ事だが人事の計るべからざる誠に戰國に若かれカランザ軍が勝利を得て墨都に入つて來たのはウエルタの脫走した後五日目の七月二十日であつたが其數日前嘗てはウエルタ軍の少佐であつたサントーユなる者旗を反してカランザ軍に付き少將となり手兵八百を率ゐて入城し我が公使館に挨拶に來たウエルタに代つて墨國の大統領となつたカランザ軍のサントーユ少將何かの御役仕る』と云ふ譯だ初めの程は何等か

▽異心—を挾んでゐはしまいかとも疑つたが次第に語つてゐるうちに二心は無きものと判明し其請に任せて八百の手兵を閲した其兵たるや誠に雜然たるもので或は毛皮を著た者があり半裸體の者があり老いたる者があり幼きがあり女さへも巴御前然と馬上に長劍を按じては頻りにカランザ萬歲を唱へて居る(つゞく)

## 革命將軍(三)
### 候補生時代の蔡鍔

我等は蔡鍔に士官學校時代の同期生よ、彼奴は其頃から一寸變つて居た奴さ、今なを彼等の間には當時の一時話は傳はつて居る

□海岸の密會　唐繼堯の報告

之れに反し、南滿から來た即ち漢人留學生の生活は何うで有つたか。彼等が賴む所はたゞ自己の頭腦である自己の手腕である。彼等の胸を去らないものは國家である。塗炭に苦しむ民である。內亂又內亂に流轉定めなく逃げ迷ふ老幼である。彼等は誠忠なる、紀律ある、敏捷なる日本軍隊を、理想的の模範として居つた

彼等は不自由なる兵營生活に甘んじて起臥飮食共に聊かの不平も不足も洩さなかつた。最も彼等の財嚢は滿人のそれに比して甚だ豐でなかつた彼等の唯一の快樂は同志

相集つて下宿屋に於ける討論

である。戰術の講究であつた。『亡國の美しい軍牌。甲冑を著けた小羊よ』とは彼等が滿人留學生を呼ぶ名であつた。

南北興廢の氣象は此の時既に明かに萠芽した居た。東夷の醜を嘲けつた平家の公達と鞍馬や木曾の山中に椎夫と共に生ひ立つた源家の遺孤とのコントラストに甚だ似て居るではないか。如斯き兩者の間には深い溝壑が橫たはつて居た。彼等は共に學びながら共に樂しみ共に外出し共に語り合ふが如き事は絕對になかつた。

家宅搜索を受てから四日目の事である、消燈時刻を過ぎた兵營の夜は活氣橫溢たる晝に引換へて寂寞として音も無くまだ宵ながら深夜の如き靜かさであつた。

『蔡大哥々々』と四邊を忍ぶ聲は唐繼堯である、其の聲は息が端切んで常に沈默

寡言である彼には珍らしく焦躁

た態度である。暗中に起き立つた蔡鍔は。

『唐君か何にか變つた事でも起つたのか』

『ハア、僕は今夜危く殺されやうとしたのです。辛つと逃げて、今歸つて來たんです。ア、酷い、顏も著衣も、泥だらけです。』

『一體君は何處を步いて居たんだ。』『濱邊の泥ッ』さうして誰かと喧嘩でも爲たのか』

『何に喧嘩ぢやあないんです。此の間家宅搜索を受けた時、貴方が此の犯罪は多分滿人の所業であるから一番搜し出さうぢやないかと云はれたので僕はあれから隙さへあれば搜索に手を著けて居つたんです。探偵と云ふ奴は化て見ると案外面白味のあるものですな。最も今夜はわざ〳〵探偵に出掛けた譯ではなかつたんですが、一夕刻から私用を以て茲から二里許りもある金岩海岸の方へ行つたんです。しますとねあの寂しい海岸を

三人の男が而も軍服を著けた男

が、私々語りながら行くのでした。私も恰度其の方向へ行くのでしたから直ぐ後から蹤いて行くと『馬鹿に搜索が嚴しくなつて來たぢやないか』『野砲の奴等まで家宅搜索を受けたそうだ』『皆んな還へして置いたら問題にはなるまい』など云ふ言葉が途切れ〳〵に聞えるのでした而も其の言葉は日本語でしたが明かに支那人の用ふる日本語でした、私の胸は躍りました……。』

## 演藝

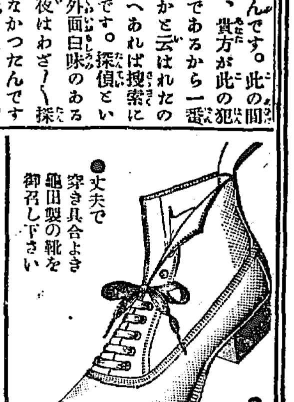
▲御成座　五日の替りは前狂言源平布引瀧大序より御殿まで切は彦山權現六助住家にて役割左の如し
狐忠信(海老藏)靜御前、お園(仙太郞)お里(○○)小せん、母お幸(○○)彌助實は[illegible]六助

▲○○○○○(講談)講談、講談(利一)源左衛門[illegible]

▲恭觴再び來る　目下大正座にて興行中の京山恭安一行は近く同地打上げ浪花館に開演すべく今回は更に若手を增加ふる由

▲壽館　燕左衛門四日の呼び物左の如し
壺坂靈驗記(香右衛門)青年立志談(むら雲)[illegible]士傳(北海入道)女武士道(山本松子)俠客傳(燕左衛門)

▲佐久良座　三輪眞一行五日の替りは柳川春葉作[illegible]にて役割左の如し
院長神代(三輪眞)花路士大河內(水谷十太郞)婦剛吉(水野勇)金貸町岡(乾三吉)淺倉須子(池田幸榮)岩本(播磨陽一)淺倉準三(西村健)尾形勝爽(香月晃)

●丈夫で穿き具合よき龜田製の靴を御召し下さい
●御注文は足袋文數又は紙に足の周圍を畫き送る事
●營業品目錄す法用紙御報次第送呈
一金四圓五拾錢　編上靴
一金五圓　深ゴム靴　同種
一金五圓八拾錢　同
一金七圓五拾錢　變形靴
●一枚革深ゴム靴は金五拾錢値增
東京市芝區愛宕下町　龜田靴店　電話芝二二〇二　振替東京四二七八

緊急廣告
石鹼製造資本主又は共同經營者を求む器具機械完備從來營業中の處事業擴張上增資を要す御希望の御方は左記の處へ御來店を乞ふ
京城花園町八一　豐商會　電話一三八四番

ウインスロー社製　アイス、スケート　新荷到着仕候間陸續御用命乞
(定價表御申越次第送呈可仕候)
發賣元　美滿津商店　東京本郷五丁目　電話下谷　振替東京

齒科　京城壽町八番地(浦尾旅館南横)　齒科醫院　辰市
齒科醫學士　辰市捨三郞

ハカリ印
油斷大敵！
かぜは萬病の基で決して油斷は出來ないのである、之を打捨て置けば往々チブスや肺炎に變症して後悔する事となる故にかぜは勿論熱病に罹られたる諸君は速かにハカリ印のヘブリン丸を服用して熱を解き全快せらるべし。
大阪田口のヘブリン丸を　ハカリ印のヘブリン丸と改稱

金牌受領　上酒壹升に付四拾錢　卸賣は特に割引可致候
清酒美淋燒酎　釀造元　京城櫻井町一丁目　中井酒造場　電話百七十七番


天氣　晴れ時々曇り
二月五日　四日午後六時より五日午後六時迄

…者員及び…夫は時を移さず現場に驅けつけ…なり消防に努めたるも北風烈しく…損害は約五千…

◎撃劍大會　仁川分監にては職…飛入仕合…めて盛會なるべし

◎拜觀團募集　釜山商業會議所及び同人…

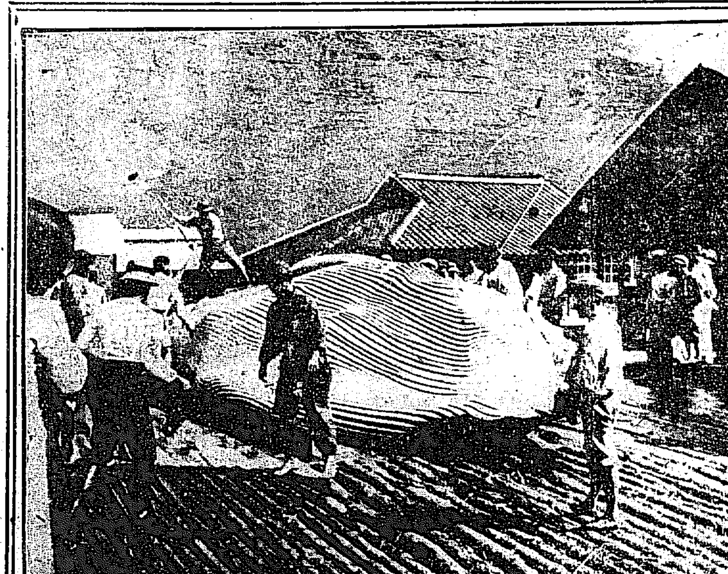
…第一村築緒（三）の兩人は昨…しく横領し…辨理中の處二月二日安田判事係書記…

◎連絡船上陸客　三日午前入…一等…浮正一、小賀要…十二名）

# ●鯨とり＝海の兒の意氣（二）

船長よりも大切にされる砲手＝前檣頭の見張番＝一時間六十哩の速力＝轟然一發＝渦＝逃げるよ鯨＝一頭で一人前三百圓

諾威式捕鯨船には普通十四五人の乘組員が居る、就中砲手は船長よりも大切にされて主に諾威人が多いやうである、諾威はむかしから捕鯨事業の盛んな國で此の國の漁師は既に小學校を卒業した頃から捕鯨船に乘り込んで修業する船が長崎の根據地を出るとまだ水平線には太陽さへも昇らぬのに中央の前檣搭には一名の□見張番『鯨見』が瞬もせずに海上を凝視して居る此の鯨見の起つ搭は麥酒樽位の桶で作られ如何なる巨濤にも淩はれぬやう確かと身體を縛り附けられて居る、斯くて捕鯨船が海上五十哩百哩と駛りつゝある間に鯨見は海上に白く噴きあがる鯨の潮を發見する、船は全速力を以て鯨の方向に疾航する、其の間分一分、秒一秒と大活劇の幕は迫るのであるが砲手は又舷首甲板の砲座の前に立つて發射管の把手を握り締め船内は誰れの顏にも緊張した氣分が漲つて來る、此の時□恐る可き敵の襲來を知つた鯨はこれも亦全速力で逃げる、根限り逃げる、然も鯨はその巨大なる體軀を海豚のやうに動かし乍ら四五回噴潮を試むると共に海底深く潛りつゝ逃げる、併し其の通路に當る海水は常に青白き色に光るので船から見れば實に美しい色に見える、斯くて適當の距離を保ちつゝ鯨と並行疾航しつゝある間に砲手は轟然一發砲座に備へられたる銛を發射する、銛は又鯨の鰭側きなる肺部を貫いた上火藥の仕掛によつて尖端の銛爪が四つに開くから憖うなればモウ何處までも鯨の躰軀を離れる心配はない、併し□此の刹那に於ける鯨の勢ひは驚く許り凄まじく其の突入しつゝある海水は俄然縱一丈餘の眞空なる大穴を穿ち轟々たる渦津瀾は大渦を卷いて銛に著けられたターロープは矢のやうに疾く牽かれて行く、次いで鯨は廣い海面にブク〳〵と白き水煙を泡立たせつゝ一時間六十哩の速力で突進し其の後約一哩許りも逃げ出した頃砲手に堪へず海底に蹤れるのである、併し時にはありだけの綱も引き出されて太さ五寸に餘る大綱も弓弦の如く張りつめる事がある、船は又危險と思へば止むを得ず綱を切斷する事もあるが中には突然銛の根が切れて乘組員全員蜻蛉返りをする事もある、鯨を一頭捕れば砲手船長始め一同二三百圓の賞與金を貰ふ『何うせ大きな鯨の體軀だ、何處を射つても差支なからう』と素人は思ふが、銛を擊つ機會はホンの一二秒の間である、それは鯨が呼吸の爲めに背面を高く現して次ぎに頭部を下げつゝ沈まんとする□瞬間の一刹那であつて其の機會を取り逃せば失敗に歸する、若し擊たれた鯨が一發の銛で斃れなければ起重機で引き寄せつゝ再び銛を擊つ、引きあげた鯨は舷首に吊つて茲に勇ましく根據地指して凱旋する、兎に角鯨捕りは壯快な仕事である



長崎港頭に陸揚げせる鯨

# ●曉の闇を震はす爆竹の響

舊正月元旦の支那人街朝鮮人街

春は立つた舊暦のお正月と一緒に優しい暖かな手は凍つた冬の胸に措かれたこれから段々暖かになつてゆく□四日は舊正月元旦とあつて朝鮮人は子供の色衣を拵へるやら餅を搗くやら支那人は金粉散らしの赤紙に『對我生財』だの『陸發萬里』『根深葉茂』だのと□縁起な文字を書き出して門柱にベタ〳〵と貼り付けたり紅絹の閨燈を軒に吊つたりして晦日まへから迎年の準備に忙しかつた四日になるとまだ□東雲も告げない間から其處でも此處でも闇の帳を裂はして爆竹を鳴らせる心持の好い□煙硝の香ひが常は異臭に充ちた支那人町の暗から漂うて來る夜が明け放れると大路の柳はまだ芽ぐまず昨日の儘なれども見渡す限りに□櫻草でも咲き出た樣に濃い青黃、緋、桃色、紫、淺黃などの色々の著物を來た朝鮮の子供が撒き散らした樣に歩いて居る□平常は白や黑の著物を著て居るので左まで目立たないが斯うして見ると子供ばかりの京城の樣だ濃い色々の□人形の天下の樣である、深紅の上衣に濃紫の袴を著けた少女は編んで下げた髮に金襴の巾廣い布を結び下げて居る□桃色のツルマキの男兒は手製の紙鳶を提げて紺青の大空を眺めて居る、何の顏も皆な□嬉しさに輝いて居る、狸の樣にムク〳〵と著込んだ支那人の子供は日本帽子に支那服洋靴といふ半進化のお□父樣に手を引かれてこれもそろ〳〵して居る支那煉瓦の窓からは陽氣に胡弓や鉦鼓が響いて來る

# 商況

## 大阪株式特電

| 種類 | 拂込 | 前日後場 | 四日前場 |
|---|---|---|---|
| 宇治川水 | 吾〇 | — | 究、合 |
| 神戶電鐵 | 吾〇 | — | — |
| 京阪電鐵 | 吾〇 | — | 吾、〇 |
| 和歌山紡 | 吾〇 | — | — |
| 合同紡績 | 吾〇 | — | 究、吾 |
| 福島紡績 | 吾〇 | — | 一吉、吾 |
| 同上新株 | 吾〇 | — | — |
| 東洋紡績 | 吾〇 | — | — |
| 大阪商船 | 吾〇 | — | — |
| 日本郵船 | 吾〇 | — | — |
| 大阪米穀 | 吾〇 | — | — |
| 東京新株 | 吾〇 | — | — |
| 大阪株式 | 吾〇 | — | — |

## 大阪三品特電

| 四日前場 | | |
|---|---|---|
| 一月限 | 一三、九九〇 | 一三、九九〇 |
| 二月限 | 一四、九九〇 | 一四、七七〇 |
| 三月限 | 一五、八八〇 | 一五、七七〇 |
| 四月限 | 一六、八八〇 | 一六、八八〇 |
| 五月限 | 一七、二〇 | 一七、一〇 |
| 六月限 | 一八、四〇 | 一七、九〇 |

## 大阪期米特電

▲四日前場　當限寄付　一二、八〇　中限寄付　一三、七六　先限寄付　一三、九一　め止

## 雜報

●毛斯新高値　…

●染料高に賣需頗る…々恐慌を加へつゝあり

●硝子器昂騰　菓子瓶飴瓶等最近二三割高　ホヤ製造業者製品一割上げ發表　食器類は一割高位の邊に持堪えんとす

●染料下向く　黑及ベンゾーの百三十五圓を報

●夏帽は氣高　大に價格低下　漂白藥品の暴騰と橡皮及染料高に因りボン高等

●洋傘二三割高　割絹傘一割高の見當　持越品は…

●片栗粉と新荷　上物の仁川沖著六圓三十錢

●砂糖下灘ぶり　十錢安のエッキスの十二圓を維持

皆無なれば何れも不可なからん…

田中商店　定期賣買の緊密信用御取引…　電話長一六二八番　一五二番

## 下關相場

## 各地商況

●木浦（二日の穀物）…

確實　迅速　仁川海岸町　取引所仲買人　廣瀬辰太郎　電話一六〇番　六三番

## 京城正米

南大門の廻米

## 仁川現物市場

## 生魚市場

## 仁川期米

▲四日前場　三節十四圓丁度四節十四圓二十一錢と大暴騰移…　大阪六節十二錢七節〇九錢安移

## 市場零聞

### 前場の商戰

▲前場伸び惱み　急激の昂騰

▲一押し豫期

▲大に賣る　大阪の暴騰と好箇の賣場

▲大寒の明け

▲實收額發表　昨年度の實收額五千五百九十一萬四千三百六十一石と發表

▲實收と人氣　人氣は已に豫期し居りたる丈　表と同時に暴落を演じ　昨年は實收額發表に反對の現象

▲注目すべき再び鞘問題　物十一月限の昂騰は昨年九月に先安値…二圓七十五錢と迄縮少し終に鞘の擴大…現今の一圓八九十錢乃至二圓鞘に相當

大阪の高低は結局行き過ぎに反し仁川は人氣が已に行き過ぎを許さぬ

## 仁川米豆取引所

四日の四月限

前場　寄付　十一圓〆六錢　高値　十一圓〆二錢　安値　十一圓〆一錢

平均値段　一節　十一圓〆七錢　二節　十一圓〆四錢　三節　十一圓〆四錢　四節　十一圓〆三錢　五節　十一圓〆二錢

賣買取組高　二月限　二千九百石　三月限　四萬五千五百石　四月限　九千三百五十石

## 北濱だより

▲堂島米株

▲日本製糖株

# 演藝案内

大正館　櫻井町　電話八七三番

壽座　本町　電話五七八番

黃金館　黃金町四丁目　電話二六三七

佐久良座　新龍山

壽館　電話一〇五〇

御成座　電話一九一

浪花館　明治町　電話二六〇番　近日中に開演仕候


七ふくひろめ丸　本家　大阪高麗橋　七ふくや　伊藤長兵衛

婦人科　産科　入院分娩應需　京城旭町壹丁目　院主　衣笠茂　中央婦人病院（電話二三四〇番）

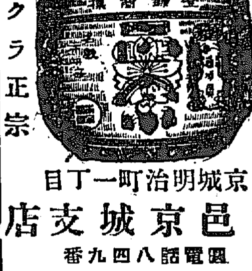
製造元とのやくそくで割の安い品そろいの　砂糖、麥粉、寒天、金巾、燐寸、石油、洋蠟、鑵詰、紙、乾物、罐詰、ビール、サイダー、葡萄酒、清酒、醬油、染粉、足袋、其他の日鮮人向雜貨食料品　大おしろ店　仁川本町　河野本店　電話二八二番　振替京城一二一番

浪板洋釘土工用具　石油揮發油諸油　大谷金庫建築金物　消防用具類　和洋ストーブ　京城本町一丁目　諸官衙御用達　佐野彦商店　電話一六三番　振替京城一二〇番　●地方よりの御注文は代金引換を以て迅速に御發送可仕候

ウ　リ　ダ　シ　輕便で堅牢で而して最も廉價な熊平謄寫版　定價　半紙版　金拾圓　美濃版　金拾貳圓　當分の内定價の一割引　京城本町二丁目　製造發賣元　熊平支店　電話六二四番　振替京城三二番

小兒科專門　內科　京城旭町三丁目（元十全病院跡）　若槻醫院　ドクトル・メヂチーネ　若槻覺隆　電話二四六二番

比較は最良の撰擇法なり　サクラ正宗　サクラ正宗



京城明治町一丁目　山邑京城支店　電話八四九番　振替京城五七番

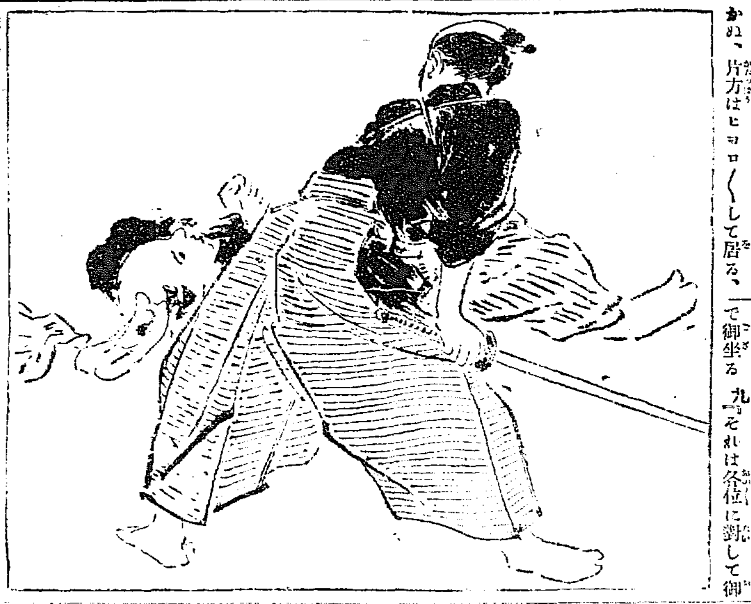
貯蓄預金　元金百圓ニ付日歩壹錢四厘　壹錢以上何程ニテモ御預申候　株式會社長崎貯蓄銀行代理店　株式會社十八銀行京城支店　京城黃金町　電話四二〇番　五八〇番　振替口座京城八一四番　同　龍山出張所　龍山元町二丁目　電話一八番　諸預金貸付爲替銀行一般ノ業務ハ精々御便利ニ取扱可申候

# 越後大評定

第百二十一席　早川貞水口演

## 渡邊九十郎の仇討

『何をッ』と左右から拔連れ打つて蒐る、渡邊九十郎チャンチャンチャリーンと受ける、之を見て御足輕、漸次後へ退がる、漸々進んで來るのが助太刀の法でありますが、段々後へ退がる　甲『始まつた〳〵、どうも眞劍立會は御同樣に始めてゞ御坐るが大層すごいもので御坐る』乙『どうも大變なもので御坐る』丙『ありや何うして正木、比留間は敵ふものぢやない、渡邊樣は御覽なさい、身體が動かぬ、片方はヒヨロ〳〵して居る、迚も敵ひやしません、南無阿彌陀佛、南無阿彌陀佛』乙『今から引導渡しても早い』など、噂して居る、所へ斬込む一刀ひつ拂ふと渡邊九十郎『エイッ』叫んだ一聲、比留間の肩口から胸板へ斬り下げた、血煙たつてズドゥーンと倒れる之を見てアッと許りに驚いた正木團助後へ退がると、踏込んで『ヱイッ』一聲斬ると、是また血煙たつて其處へ倒れる、そこで九十郎兩人の止めを刺すと『ヤアヤア各位方に於ては後見なるか御助太刀なるか分らざれども、若し兩人を討つて不都合と御心得になつたならば九十郎對手に及ぶ』〇『イヤ何う仕りまして『ソレ逃げろ』ウワーッと足輕は逃出す、打笑ひました渡邊九十郎殿、最早二人の弟の仇を討つて見れば生きて居られぬ、今此所に切腹いたさうとする所へ馬に打乗つて『ハイヨウ』と驅付ける者がある、今腹を切らんとした九十郎、何人ならんと振返へると『ヤア〳〵渡邊殿、早計り給ふな、死は一旦にして易く、生は萬代にして難し、今この所に於て切腹なさるは犬死に候ぞや』と云ふ人の顏を見れば是ぞ越後家の忠臣、御正義派の一人西尾庄左衞門　九『さては貴下は西尾殿』庄『サア御止まりなさい、今こゝで死ぬるに及ばぬ、拙も吾々の見る所、小栗は確かに御當家の大惡人なり、其許いま此處に死ぬる生命を存へ、吾々と共に小栗に詰腹を切らせては如何で御坐る』九『それは各位に對して御役には立たぬが、九十郎御家のためなれば味方いたすで御坐る』庄『然らば是より御引揚げに相成つて然るべし』是に於て渡邊九十郎大に喜び、西尾庄左衞門と同道長勝寺へ引返し見ると、一同の集まつて居る人々は忠臣ばかり、是で西尾庄左衞門が『如何に各位方江戸表より來られ、只今比留間、正木の兩名を、松原にて斬つて落したる渡邊九十郎殿、吾々の意見には御同意下されたに依つて、今この所へ御同道申し上げ』と云ふ一同が『イヤ是は〳〵渡邊殿でござつたか、宜うこそ御出で下されたり、今御家の一大事、是より小栗の家へ斬込み、美作はじめ惡人輩を討絶し、御家を泰山の安きに置かんの所存、吾々の御味方とは喜ばしきことで御坐る』是れ長勝寺の鐘樓に登り、西尾の指揮でゴーン〳〵ゴン〳〵ゴンと時ならぬ早鐘を突く、之を聞いて家中の人々〇『ソレ長勝寺の方で早鐘を突く、是ぞ御家の一大事の時ならでは、突くべき鐘にあらず、何事なるか』△『さては出火か、町家の火事なるか』△『イヤ左にあらず、何事か大事なり、ソレ見屆けろ』と驅付けしは第一番に天野一角、小野星庄助、望月賢八郎、荻田三十郎、村田仙左衞門、岡島將監、遠山甚内、松平孫四郎、及川庄左衞門、野呂勘兵衞、坂口勘十郎、川上與惣次、市原作九郎、大岡進の方々百五十餘人



## お聞きなさい

▲借金が拂へぬと　飛驒國益田郡高根村字日和田は今尚昔作らの仙境であるが此村で人から借金をしてさうして約束の期日に至つて仕拂ふことが出來ぬと貸主は村の掲示板へ持つて行つて『金五圓也右は何の誰に貸付したるも期日に至り返濟せざるもの也』と書いて置く、それでもつて貸借關係は棒引になり、借主は一代村の人に對して頭が上らぬことになるんださうな


日本一　清酢

日本醸造酢の元祖にして第一位也　美味滋養に於て又第一位也

朝鮮輸入高の第一位にして京城の賣高又第一位なり

電話二四五番

日本醬油株式會社　京城出張所　京城太平通二丁目


▲護衞付の頸飾　猶太商米を傾けたゲービー、デスリー孃は猶國王イムマニエルから百萬弗の首飾りを贈られたのであるが此首飾りを護衞する爲めに常に二名の巡査が日夜附き切つて居る

▲感心な電信配達小僧　大阪川口郵便局の電報配達夫中村善次郎と云ふは途中で二千九百圓といふ更紗包みの大金を拾ひ上げた、遺失者は大阪鐵管合名會社の小僧中村幸次郎（二八）と云ふのであつた、小僧がお禮に百五十圓を拂はうと言ふのを『お前は小僧の身分で嘸困るだらう』と其百五十圓を一錢も取らなかつた

二月六日九星

舊正月三日　癸酉

本命七赤　西危　先負

▲七赤● 激論を非ぜんとす愼し新事見合 [illegible]　▲八白● 不都合の日 [illegible]　▲九紫● [illegible]　▲一白● [illegible]　▲二黑● [illegible]　▲三碧● [illegible]　▲四綠● [illegible]　▲五黄● [illegible]　▲六白● [illegible]

汽車發着

京釜　南行 [illegible]　北行 [illegible]

湖南　南行 [illegible]　北行 [illegible]

京元　北行 [illegible]　南行 [illegible]


石鹸よりも牛乳よりも

クラブ洗粉

御洗面にも　御入浴にも　御髪洗にも

不思議な程

美の素配合

クラブ洗粉

有効な美身料としてクラブ洗粉の顯著なる効果は遙かに歐米の高級石鹸を凌ぎ牛乳よりも卵よりも數層優る

不思議に

牛乳よりも

石鹸よりも

生地の色艶が美しくなり生れ代た樣に垢拔のする

石鹸よりも牛乳よりも

クラブ洗粉

新たに美の素を配合せるクラブ洗粉

京城日報
五日朝刊 (第三千二十一號)
第三版
本紙定價 一部金三錢五厘 一ケ月金六拾錢 郵税共 ▲郵券代用二割增
廣告料 ▲五號活字一行金七拾錢 ▲三號活字同上 ▲特別指定は二割增
發行兼編輯人 奥田直毅
印刷人 谷口敏夫
發行所 合資會社 京城日報社 太平通一丁目
電話 編輯局三四五番 營業局二二四番 振替貯金口座京城三〇〇番

# 總督の諭告と吾人の覺悟 (三十)

## 勤儉力行

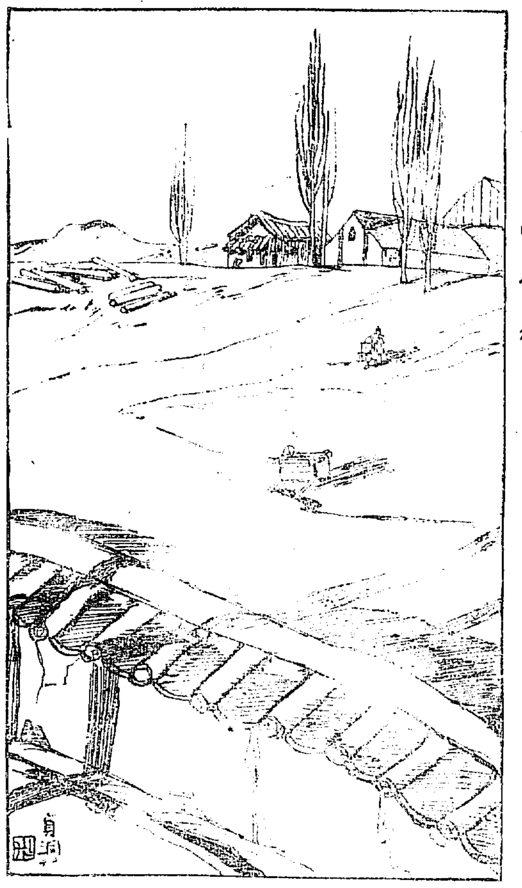
總督が不撓の勇氣と不屈の努力は今や豫期の計畫を遂行して殆んど遺憾なく、官民一致の努力は諸般の事項に亙りて既に今日の成績を收むるを得たり總督が併合當時を回顧して山河面目を改め、窮民蘇息し、昭代の活化將に全土に洽からむとすといへる、眞に吾人を欺かざるの言にして、施政當初總督の宣明せる施政の大綱に對し、其實行を顧せるものをして愧死せしむるに足る可し。然れども今回の諭告は徒らに既往の成績を數へて其効果を誇らむとするものにあらずして、其本旨が過去五年間の首尾を考覈して、既往の實績に鑑み、更に將來に對する要望を披陳するに在るを知らば、吾人亦拮据勉勵、之れに對應して其響を一にし、以て日進月歩の世運に遲るゝ無く、益々國運を興し益々富力を進むることに勗めざる可からず、總督が今日の實績を以て朝鮮開發の大業より見れば是れ唯初期の小成に過ぎざる而已といへるは、言餘りに謙譲に過ぎたりと雖も、將來の大成を期せんには官民共に亦此覺悟を以て進まざる可からず。

凡そ國難に處しては奮勵するも稍餘裕を生ずるに至れば當に安逸を念ふ而已ならず、放逸浮華に流るゝは古今東西の人情なり、蓋し國家の盛衰興亡は創業の時代にあらずして守成の時代に定る。我朝鮮は今や其經綸に一期を劃して進取の時代より漸く守成の期に移らむとす、之れ官民の孰れを問はず最も箴戒すべき重大の時代なり、若し今日の成果に安じて、心驕り氣緩むが如きことあらば所謂九仞の功を一簣に缺ぐものにして既成の効果を空しくするは勿論、將來の大成を期するに由なし。然るに近來時運の進展に眩惑し、生計の向上に馴れて早くも進取の元氣を消耗し、安逸驕奢を念ふもの漸く多からむとするの傾向あり、今之れを貿易品に就きて見るも、昨年の如きは五千九百餘萬圓の輸移入額中一千五百萬圓は奢侈品及び飲食物に依りて占めらるゝの狀況に在り、而かも其需用者は多く内地人に非ずして概して生活程度低き朝鮮人なりといふに至りては洵に寒心に堪へざる現象なり。上に誅求の威なく、下に火賊强盜の患なきは勿論、司直治安の機關完備して生命財産の安固は確實に保障せらるゝ今日の狀態を知悉しながら勤儉貯蓄の念を忘れて暖衣飽食を事とし鮮内の生産に甘せずして殊更に之れを海外に仰ぐが如きは、既に目前の小成に安じ、將來の大成を忘るの甚しきものにして、斯の如きは實に一人一家の衰退を招くに止まらず延いて新版圖の開發に影響する處鮮少ならずとせず、此際各自は更に一段の勇氣と一層の精勵を以て本來の任務職業に盡瘁す可きは勿論、各自浪費を節して不時の支出に備へ、進むで生業の發展に資し、以て一身一家の富實を圖ると共に兼ねて國益の增進に裨益せむ事を期せざる可らず

# 陰崖回春

## 子爵趙重應氏談

二月四日陰曆朝鮮の元旦に當り子爵趙重應氏を訪うて年頭の所感を聽く氏は客臘以來病床に在りて頻りに歳末の市況如何を心配せし由なるが案ずるよりは産むが易く一般に豫想以外の好結果を收めたるを悦ぶとて莞爾として左の如く語れり『元來京城の市況は昨秋の共進會以來一般に顯著なる好景氣を齎らせしが其の後引續き好人氣なるは悦ぶ可し。斯る現象は實に數年來稀有の事實にして其の原因が一に共進會の開催に胚胎せるは萬人の認むる處なり。殊に此の好景氣の主因たる共進會は開會以來實に豫期以上の大繁昌を收め内には全半島の鮮民をして互に長を採り短を捨つるの活教訓を與へ且つ又從來半島の統治に疑懼の眼を以て迎へたる一般頑迷の徒の誤解を解き、外に向つては内外人に對し朝鮮文化の眞相を示したるものにして其の功果は如何に甚大なりしかは今更喋々を要せざる處なるも、越えて朝鮮陰曆の元旦を迎へたる今日に際しては其の僅かに京城市況に影響したる功果のみに鑑みるも余は多大の感謝を述べざる可らず。忌憚なく言へば余は共進會協贊會員の末班を穢せし者共進會の京城市況に及ぼす影響に就きては又尠なからざる注意を拂ひしものなるが、當時内鮮人の商賈が何れも豫期以上の成績を擧げたる上に、猶ほ共進會閉會後に至りても一層の事業擴張を試みつゝあるに對し些か憂慮の念を懷かざる能はざりしなり。然るに舊臘初旬に至りても商賈の仕入商は依然として盛んなるにより些か不審に堪へず、試みに鍾路の各商店に就きて訊したるに彼等は何れも共進會に際して其の在庫品を殘らず廉賣へせし樣子にて更に歳晩の取引にも近年稀れなる好成績を收めたるが如し。玆に於て余は思ふに此の好景氣の原因たる、全く一般鮮人の富の程度が向上せると延いては又、各地交通機關の發達と米價騰貴に原因せるものたるは疑ふの餘地なく洵に朝鮮開發の爲め慶賀に堪へざる次第なり。然れ共翻つて思ふに斯る商況の發展は一面また鮮人奢侈の風潮を助成せる結果に非ざるか。果して然らば多年總督の標語とせらるゝ勸儉貯蓄の訓意に悖る事なりとて此の邊の事も調査したるに恁は余の一片の杞憂に過ぎずして現に鮮人側銀行に於ては年末に際し十萬圓許りの預金を增加し一般に節儉の美德を解し始めたる證左あるは余の最も欣嬉に堪へざる處なり。現に輕佻浮華の代表者たる如き妓生社會に於ても近來節儉の美德を解する者亦尠なからず中には年末に際し約一千石の小作米を收めたる者さへありたる程なるも以て道は一片の笑話視せらるゝ迄に現代鮮人の意嚮を窺ふに足る可し。猶ほ又多年余の斡旋せる鮮人理髮業組合の如きも從來組合費の滯納に困難せるもの尠なからざりしが此の歳末は一人の不納者さへ無く且つ又一般下層勞働者の如きも懷中温かなるが如く是に由つて之を觀れば多年總督の唱導せられたる功果も漸々顯著となりしものと云ふ可く、其の五年間の統治に於て至誠民衆の奢侈淫逸を誡め且つ又一般不健全なる事業の亂興を抑へられたる誠意多とせずんばあらず。鮮語に謂所『枯木生花』『陰崖回春』の語は實に此の意に外ならずして、久困積疲の民初めて生氣ある國民と化せりと謂ふべし。已に鮮民の多くが斯の如く秩序ある生活に蘇生せる上は百尺竿頭更に一歩を進めて内鮮人相提携の上東洋の時運に貢獻せざる可らず、世間或は今日に至りても猶ほ日鮮同化を說く者あるも、余をして云はしむれば内鮮人の精神結合は既に過去の問題に屬し今日に於ては最早や内鮮人の物質的同化を圖らざる可らず。余は茂且に當り次の如く一詩を賦せり曰く『世道循環日復新、天心知佑左瀛人、日光東出波東注、暘谷能成大地春』と、之れ余の所感なるも現代に於ては日本は將に東洋の平和を保證し進みては世界の文化に貢獻すべき時運にあり。恰も陽春が天地萬象を蘇生せしむるの地位にあればわれ等鮮人も亦努めざる可らず。要するに京城の市況は多々益々繁昌せり、此の上は猶ほ市區の改正、市街の淸潔、秩序の整齊等に留意し取引の繁盛、金融の潤滑を圖り今日の好況を俾までも持續發展せしめざる可らず。此



貞洞の午後 石川富造筆

# 議會覗き

東京支局 一記者

議場の光景は今日の天氣と同樣に陰欝を極めて議員の出足も鈍い。夫れもノラリクラリ▲電氣がパツと點いて開會▲劈頭伊東知也君が『長大息して涙を呑み……』の口調で乃木問題に關する質問斷然中止の理由を述べ▲『日本の議會に於て英國の議會の如く五時間、六時間乃至一日一晝夜に亙る大演說を聞くことの出來ないのを遺憾とする』と滔々として引退る▲すると島田議長『異議の動議がありませんから異議なしと認めます』などと蒲鉾を笑はせたは惡脫過ぎた▲伊東君と、[illegible]の佐々木安五郎君斯くと見てウムジを曲げたのか頻りと讒謗を揚げ『政府の貴族院に對する態度は聰家の狗の如し、而して衆議院に對する態度は良家の鼠の如し……政府の大臣共に此ことを申聞せて貰ひたい……厚き唇を以て有名なる大隈首相に……』などと出ても出ても議長を困らせる▲廣岡宇一郎君議員瀆職事件の審理事件に關する質問とあつて漢文調の硬い語尾で卓を叩きながら『尾崎君は平素政に熱心にして且つ言語に雄なる人である願くば明確に剴切に答辯あらんことを望む』とやつたが▲頓と手答へなく尾崎法相議員席に納まつてゐるので怒るまいことか廣岡君眞ツ赤になつて『何故に法相は答辯しないのか、答辯を望む……』▲『答辯は出來ませんか』と敦圉く▲すると尾崎法相反り返つた胸先を突出しながら悠々と腰を卸した▲廣岡君の淺黒い顏を稍上眼に睨みする▲同時に政友會側の原敬君を始め面々俄に入場して來ると忽ち盛んな拍手が起つて滿場漸く緊張す

# 大阪より

△大阪朝鮮貿易 大阪稅關の調査に係る一月下旬の朝鮮貿易は移出六十六萬九百六圓移入百十萬四千八十五圓入超四十四萬三千百七十九圓なるが一月以降の累計は移出百九十五萬七千二百二十三圓移入四百萬四千五百二十一圓入超二百四萬七千二百九十八圓を見たり商品表如左

| | 一月下旬 | 一月以降累計 |
|---|---|---|
| 移出品價 | [illegible] | [illegible] |
| 移入品價 | [illegible] | [illegible] |
| 入超 | [illegible] | [illegible] |
| 移出金銀價 | [illegible] | [illegible] |
| 移入金銀價 | [illegible] | [illegible] |
| 入超 | [illegible] | [illegible] |

△移出重要品

| | | |
|---|---|---|
| 綿糸 | [illegible] | [illegible] |
| 清酒 | [illegible] | [illegible] |
| 綿織物 | [illegible] | [illegible] |

△移入重要品

| | | |
|---|---|---|
| [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| [illegible] | [illegible] | [illegible] |

△金融界の前途 昨年末の決濟資金は一月十三、四日頃を以て一回收を終りたるものゝ如く民間貸出二千二百萬圓同預金四千百萬圓を存し[illegible]告げたりしが爾後に於ける市場の[illegible]一月下旬に至り[illegible]の受渡資金の需要[illegible]減少を呈し一方[illegible]增進を告げ日銀大阪支店の帳況に見るも其趨勢殆んど昨年末の繁忙に匹敵し、コール金全く拂底し翌拂一錢四五厘月越し一錢六七厘を唱へ需要多くして出方少く一流手形一錢二厘普通割引亦一錢五六厘に引締を告げ金融界は漸く活況を帶び金利亦徐々に昂進せんとする傾向を認む近時諸物價の騰貴は普通的にして一般の商況一として可ならざるなく所謂好景氣時代を現出しつゝあり從つて資金の移動亦漸く頻繁を加へ兌換券の膨脹頗る著しく一月中旬の最少時に於て倘且つ三億四千三百萬圓を算し之を昨年下期各月の同時に比し二千萬圓乃至六千萬圓の增加に當り更に上期各月の同期に比すれば三千五百萬圓乃至七千萬圓の膨脹を示せり是れ昨年以來貿易の出超正貨の激增に基き物價の騰貴及び人氣の回復若しくは民間銀行の信用取引膨脹に胚胎し兌換券の增發を促進せるや勿論なりと雖も月越後に至らば舊正月の終了と相俟つて資金は回收を告ぐ可く兌換券も亦素より收縮運動に移轉すべしと雖も新初の如く迅速なる回收を告ぐ可きや將た前叙の膨脹せる兌換券は何程迄收縮す可きや疑問とする所なり (大阪支局)


## 稷山鑛業株式會社 第九回決算報告

### 貸借對照表 (大正四年下半期)

負債之部

| 科目 | 金額 |
|---|---|
| 資本金 | [illegible] |
| 買價積立金 | [illegible] |
| 保險積立金 | [illegible] |
| 法定積立金 | [illegible] |
| 配當積立金 | [illegible] |
| 特別償却金 | [illegible] |
| 仕拂手形 | [illegible] |
| 當期利益金 | [illegible] |
| 合計 | [illegible] |

資産之部

| 科目 | 金額 |
|---|---|
| 鑛區 | [illegible] |
| 坑道 | [illegible] |
| 營造物 | [illegible] |
| 土地 | [illegible] |
| 砂地 | [illegible] |
| 家屋 | [illegible] |
| 機械 | [illegible] |
| 什器 | [illegible] |
| 用品 | [illegible] |
| 坑木 | [illegible] |
| 銀行預金 | [illegible] |
| 現金 | [illegible] |
| 金塊未收入代金 | [illegible] |
| 礦石代金 | [illegible] |
| 貸付金 | [illegible] |
| 受取手形 | [illegible] |
| 合計 | [illegible] |

### 損益勘定

收入之部

| 科目 | 金額 |
|---|---|
| 石金部總收入 | [illegible] |
| 砂金部總收入 | [illegible] |
| 利息金(收入濟未收入分) | [illegible] |
| 合計 | [illegible] |

支出之部

| 科目 | 金額 |
|---|---|
| 石金部總支出 | [illegible] |
| 砂金部總支出 | [illegible] |
| 當期利益金 | [illegible] |
| 合計 | [illegible] |

當期利益金ノ處分

| 科目 | 金額 |
|---|---|
| 當期利益金 | [illegible] |
| 法定積立金 | [illegible] |
| 特別償却金 | [illegible] |
| 配當積立金 | [illegible] |
| 合計 | [illegible] |
| 配當積立金前期繰越高 | [illegible] |
| 配當積立金當期末現在高 | [illegible] |
| 配當金計 壹株ニ付壹圓ツヽ | [illegible] |
| 差引殘額後期繰越 | [illegible] |

大正五年一月卅一日
忠淸南道天安郡笠場面良垈里
稷山鑛業株式會社

## 振威興農株式會社 第參回決算公告

貸借對照表

| 負債ノ部 | |
|---|---|
| 資本金 | [illegible] |
| 各種積立金 | [illegible] |
| 前期繰越金 | [illegible] |
| 合計 | [illegible] |

| 資産ノ部 | |
|---|---|
| 土地 | [illegible] |
| 器具 | [illegible] |
| 畜産 | [illegible] |
| 郵便貯金 | [illegible] |
| 未收入金 | [illegible] |
| 貸付金 | [illegible] |
| 貸付金利子 | [illegible] |
| 現金 | [illegible] |
| 合計 | [illegible] |

右之通リニ候也
大正五年二月 日
年末ニ監査役津田榮太郎、木村龜太郎重任ス
振威興農株式會社

## 生徒募集廣告

本科第一學年生徒約百名右募集ス志願者ハ本年一月十七日以後ノ朝鮮總督府官報ヲ見ルヘシ尚詳細ヲ知ラント欲スル者ハ本校又ハ平安南北、黃海、三道管内ノ公立普通學校ニ就キテ承知スヘシ
大正五年二月 日
平壤高等普通學校

## 陸地測量部御承認 二万五千分一 京城近傍地圖

既刊一枚 六枚 金八錢
同部發行五萬分一朝鮮地圖既刊五百五十枚一枚七錢五厘送料五枚迄二錢
一切前金に限る照會必要返信料
小林又七朝鮮出張店 龍山漢江通六 電話五三〇番

## 當店の特色

品質精撰量目確實弊店は御得意樣の御心になりて誠實に勉强致します殊に海産物は弊店の特色御賣は特に割引致します
海産物 米穀 酒醤油 瓶詰鑵詰 其他食料品一切
新龍山三角公園前 香椎商店 電話四百五番 振替口座京城一七二一番

## 藥劑師受驗期迫る

▲受驗者及通學生の寶典 ▲持典あり見本會則要郵二錢
▼藥劑師に非ざれば藥業に從事する資格なし藥業志望者は藥劑師となれ
▼講師は飯盛教頭村山大河有賀神谷望月小島稻田の藥學士野口福森教授
(學說實地共)全部完成
東京藥學會
藥劑師となる近道 ▲藥學士專門大家の分擔執筆せる講義錄 ▲得容易なる東京藥學講義錄に限る
東京表猿樂町廿五 神田 東京藥學會

## 支店開業廣告

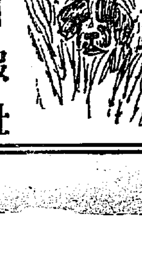
今回販路擴張の爲め左記へ支店を設け候間多少に不拘御注文の程奉願上候 敬白
△專賣特許 山下コークス(鑄物用、火造用、炊事用各種)
△ムラルペイント朝鮮一手販賣 ムラルペイントは最新式著色料にして『ペンキ』並に『シツクイ』の代用となる
京城南大門通五丁目一七
長崎 山下コークス製造所京城支店 電話一二八八番

## 文藝倶樂部 二月號

(定價廿二錢 郵稅五錢半)
小說
福は内鬼は外……額峰生
那川交換嬉と交換手……迎月子
電球屋の好手段……呼湖生
漁樵問答……遲塚麗水
於玉ケ池……森曉紅
當代婦軍記……六丁産葦
花柳情話内勤まで……鷗園主人
花柳界覺え帳……みはる
自來也(新講談)……清草舍英昌
△東京の葬儀人夫……吉川卿太郎
△臺所通……吉山旭光
△辰年に因む活動寫眞まくり……白菊子
△麗術閻總と喜多村……太郎坊
△河合と喜多村……
△演藝當座帳……鬼太郎
探偵小說 黑澤家の秘密……岡本綺堂
東京本町 博文館

## 特價發賣申込の好時

青坡吉村君潔著
銃獵之趣味
見!銃獵の手引=多獵を希望せん人=朝鮮の獵地を知らんとする人
銃獵の壯快なる事は何人も知る處ならんも徒らに心醉して遂に身命を損ふ者多きは畢竟するに獵家の不注意より來る處なり此は其の銃器を悉知せざるが爲なり
本書は銃器の如何なるかを說き且つ著者多年の經驗より銃獵の趣味と修養を併せて詳說せり
獵犬の使用と善惡を說き
朝鮮の好獵地を敘へたる處始めて『スポーツマン』たらんとする人は元より獵家必讀の好著たり
定價四十錢 特價金三十錢(郵稅共)



發行所 京城太平町一丁目 京城日報社 振替京城三〇〇番


東京現物 細紡東京株高い
當所取引所は帳簿整理の爲め臨時休會せり
十關期米 [illegible]
大阪三節二十四錢と押したるが押目は買物多く十錢と返し〇九錢と放出[illegible]
安移りに〇七錢と押したるが[illegible]
高値を出し更に三十七錢の高値を[illegible]
期付 十一圓〇九錢 止 十一圓十五錢
四月限 三月限 二月限 取組高 [illegible] 四萬六千三百五十石

# ◎難關は依然研究會

## 政府と各派の意見漸次接近

混沌を極めし政局は三日研究會の決議により一層活况を呈し來りたるが幸倶樂部は兎も角も山縣公の斡旋により取纏め得べき見込あるも研究會は依然還元論者多數にて難關は依然研究會にあり三日夜政府及び各派幹部は互讓の方法に關し協議進行中なるは事實にして兩者の意見漸次接近しつゝあれば四日中には形勢大體決定すべしと信ぜらる(東京特電)

# ◎内閣の危機去る

## 折衷案を協議して政府讓歩に決す

大隈首相は三日午後岡部長職子と會見後一木内相をして田男、三島子と會見せしめ豫算を修正せざる範圍に於て貴族院の主張を貫徹し方法に關し協議したる末左の折衷案を案出し之れを以て研究會及び幸倶樂部の總會に計ることを約し十二時過散會したり

一、國債整理基金特別會計中の第六條に更に一項を加へ『政府は前各項の規定の外必要に應じ利率の如何に拘らず借換への爲國債の募集をなすことを得』の規定を設くる法律案を政府より提出すること

二、之れと同時に政府は國債整理基金特別會計の範圍内に於て大正五年度に於て内債二千萬圓を募集し外債を召還する追加豫算案を衆議院に提出すること

三、其の結果として貴族院は總豫算の修正をなさゞること

右折衷案に對し一木内相も非公式に同意を表したるを以て四日午前九時より研究會を午後一時より幸倶樂部役員會を開き其の是否に關し協議をなし折衷案成立の見込立たば左の附帶事項を政府、貴族院間に協議行はるべし

一、鐵道資金二千萬圓の財源は大正六年度より公債によること

一、國債整理基金は大正六年度より一般會計中より更らに二千萬圓を繰入ること

三、衆議院に於て折衷案より生じたる法律案及び追加豫算案を議決する迄は貴族院の豫算審査を中止すること

にして大體に於て上院の主張は形式を變更したるのみにして事實徹底せられ政府に於て讓歩したる次第なるを以て内閣瓦壞の危機は之れにより免れたりと云ふべし(東京特電)

# ◎山西匪徒討伐電訓

支那中央政府は直隷、山西兩省當局に對し山西省北方の匪徒を討伐して擾亂の他地方に蔓延するを防ぐ爲大同府方面に至急軍隊を派遣すべしと電訓せり(上海特電)

# ◎米國大統領の聲言

大統領ウヰルソン氏はカンサス州トピカ市に於ける演說中米國民の保護及び國際公法上の權利を確保せんが爲め武力に訴ふるの要起るやも測り難しと述べたり(倫敦電報)

# ◎佛軍活躍

二月一日午後發表の公報に據れば佛軍砲兵は盛んなる活動を爲し敵の警衛隊を破壞し彈藥庫を破壞せしめたり(巴里電報)

# ◎英汽船と獨逸

華盛頓來電に據れば駐米獨逸大使ベルンストルフは條約に基き米國に來れる英國汽船アッパム號を捕獲せんとして獨逸の手に收むべく公式に要求したり右に對し國務省はアッパム號船客の釋放を命じたるも移民官は中十餘名を貧困にして上陸の資格なきものと認め入港を拒絶せり猶アッパム號には當時約五十萬磅の金塊を積載し居たりと(倫敦電報)

# ◎臺中心 事件の證據

……若し彼が日本官憲の手に渡る事とな……況を聞くに客年十一月末現在は貯蓄……千九百石鋼索三百三十二石以六故艦……合計……

一 慶北大邱一三五六、同安東九〇六、慶尚南道晋州二……三七〇八……女車座となり金錢を賭し花札を弄し……要を捕縛しつゝある……ろより一同檢事分局に送られ三日公……三箇月木戶は斷……

# ◎内閣重要會議

四日午前九時半より貴族院大臣室に於て内閣重要會議を開き首相初め各大臣(武富藏相は母堂死去の爲め缺席)參集し一木内相より、前夜研究、幸兩派幹部と還元問題に關し會見し折衷案に贊意を表したる旨を報告し追加豫算並に法律案の提出等に付き協議したり(東京特電)

# ◎仲買委員辭表提出

下關仲買總會四日午後一時開會、停止解除請願上京委員選定纏まらざる爲め當然仲買委員松田、林、河野、河野(德)、德永の五氏辭表を提出せり(下關特電)

# ◎木村庸二氏逝去

藤田組理事木村庸二氏は肺炎に罹り東京にて逝去せり享年六十歲氏は藤田家の重鎭にして功勞鮮からず(大阪特電)

# ◉東拓移民(八)

## 江景出張所管內

## (三)移住民と地方(3)

### ▲移民の地方農事に及ぼせる影響(承前)

移住民收容以來地方經濟界に及ぼせる影響の極めて顯著なるは第一項に記載せる農事の改良に伴ふ一般收穫の增加と共に著るしく購買力を增加したることゝ之れなり今一二の適例を擧ぐれば

(一)地方鮮農は移住民に依りて新なる財源を得たり

從來鮮農者に勞力を以て直ちに金錢を獲得することは荷物運搬の如き特殊の業務に限られ農業勞働に於ては殆んど其勞力を交換すると云ふに過ぎざりしが移住民の農業に着手せるや其經營法の集約なると耕作面積の廣大なるとに依り何れの移民も多大の傭人を使用せざるはなく其移住民戶數の增加するに從ひ其雇傭關係も一層頻繁となり播種より收穫調製に至る迄一年の農作期間を通じ附近鮮農の之に依りて得る收入は決して少からざる額に達し地方經濟上の一現象となれり而して此現象は單に鮮農の利益たるのみならず雇主たる移住民の經濟上に取りても頗る有利なる事柄に屬す即ち內地農業者間の雇傭關係に於て一日の勞働賃を先扶持を以て三十錢乃至四十錢にて雇入るる如きは全く不可能の事たるも鮮人は三十錢乃至三十五錢を以て雇入ることを得て移民は安き勞力を得鮮人は勞力を賣りて生活の資を得相互に便利を得つゝあり

(二)移住民收容附近の鮮農は漸次移住民の方法を模倣して穀物共同販賣並に肥料其他共同購入の實を促しつゝあり

鮮農の生產したる穀物は市價の高低又は販賣場所の如何に拘らず總て其必要に應じて之が賣却をなすの慣習なりしを以て往々奸商等の乘ずる處となり安價の賣買を餘儀なくせらるゝ弱味あり又肥料其他の購入に當りても單獨の取引は自然高價を拂ふの關係より鮮農の經濟上に及ぼす影響少からざりしが移住民の穀物を賣却するや能く相場の騰落を考へ最も有利なる時期に於て之が賣捌きをなすが故に自然高價に處分することを得尚移住民戶數の多き場所は共同賣却すべき數量も亦多きが故に遠路搬出するも左ながら購入者を吸引し得べく肥料其の他も共同して購入せば自然價格及び運賃の如きも割合安價に購入し得らるゝ等の事實を目擊するや漸次此風を模倣し經濟關係に著しき好影響を呈するに至れり

(三)會社移住民と地方金融上の關係

移住民中渡來に際しては何れも相當の準備金を携帶し而かも一時に之を支出するに非ざるを以て信用ある鮮人に對し自然之を融通することゝなり而かも其の金額は多額ならずと雖も經濟程度低き地方に在りては多少金融上に裨益を與へつゝあり

(四)移住民の渡來に依り鮮人生活上に著しき餘力を生ずるに至れり

移住民の渡來により鮮人の生活上に著しき變化を來したるは馬鈴薯又は甘藷の類を米飯に混用するの風を傳播せることゝす從來鮮人には是等の作物を栽培するもの殆んど之れなく食膳必ず米飯を備ふるを例とせしが一度移住民に依り之が代用を示せる以來翕然として栽培せざるなく殊に馬鈴薯甘藷は需要極めて汎く且つ貯藏久しきに堪ふるを以て今や鮮人間無二の常食物となり之に依り價高き米穀を可成多く賣却し收入を增加するの傾向を生じたり

# ◉忠南副業狀況

▲製莚 公州郡の製莚機は八十三臺に達し一箇年約五千八百枚の製出を爲し郡內及び論山地方に販賣し一枚平均八錢として四百六十四圓の收益を見つゝあり尙本年に於ては先づ燕岐百張乃至千臺を購入し五箇年計畫を以て之が普及を計り本年度より農手をして各面に就き實習せしめつゝあり扶餘郡に於ける藁細工は客年秋季以降長足の進歩を爲し四年に於ける產額は現今調查中に屬し未だ正確なる計數を得ざるも最近江原論山寢岩里に接近せる十面の產額を見るに共價格千二百四十圓にして之を前年本郡全體の產額に比し五百五十二圓を增加したり礪山郡にては各面自作小作地主を問はず年收五十石以上に達するものは必ず一臺宛購入せしめ又農家三十戶每に一臺宛購入せしむる方針を取り郡農手を各里に巡回せしめ之が織製の方法を指導しつゝあり瑞山郡にてはその調查を了へたるもの製莚七百八十二枚に達し唐津郡も斯道奬勵の結果四年に於て三千枚に達し之を共同販賣に付する事とし牙山郡に於ても製莚機の共同購入を爲し既に七十二臺を有し是が傳習を奬勵し天安郡に於ても農家副業奬勵會の如きものを設け益々その製造を增進せしめつゝあり

▲養蠶 公州郡に於ける蠶業は逐年著しき增加率を以て進歩し三年度の收繭量百八十七石此代金千二百餘圓四年度に於て二百四十一石此代金二千九百九十圓桑園の增加一大奬勵の結果目下百八十二町歩木數實に四十萬本に達したり而して大正四年春期に於て在來種を郡廳に取集め全部燒棄し之に代ふるに改良種を以てしたる爲め斯くの如き好成績を見たるものにして今後各種の設備を爲し講習會を開催し大に實地の技術を習得せしむると共に五年度よりは三面に繭共同販賣組合を組織せしめつゝあり扶餘郡も恩賜授產資金配付桑苗の發育成長に伴ひ大正四年に於て飼育戶數五百卅五、收繭量五石一石の增加を見舒川郡は從來桑樹不足の結果遲々として振はずと雖も大正三年度に於て桑苗三十一萬七千本四年度に於ては收繭額三十一石八百圓を得たり洪城郡の掃立枚數は千三百五十六枚にして此產額二百五十五石今後五箇年を期し飼育戶數六千戶掃立數六千枚此收繭千八百石、此金額七萬二千圓を得べき計畫なりといふ唐津郡昨年の成績に徵するに飼育戶數四百八十五戶掃立數五百四十五枚收繭額に八十六石に達せり牙山郡に於ける桑苗は既に約百六十町步に達し二三年後に於ては優に四千枚の養蠶を爲し得べし(公州)

# ◉北慶 苹果綿蟲狀況

全鮮に有數なる苹果栽培地として知られたる大邱地方の苹果は夥しく棉蟲の被害あり道當局は極力是が全滅に努力しつゝあり今大邱達城、倭館地方苹果栽培反別三百二十町步栽培本數十五萬九千四百二十九本中棉蟲發生本數四萬六千三百九十本に達し其中被害を蒙りつゝあるは五千廿六本あり一割八厘の步合なりと(大邱)

# ◉クラーク博士來鮮期

萬國基督教共勵會々長米國人クラーク博士夫妻は來る二十二日橫濱入港の郵船にて來朝し東京、大阪、京都等を經て三月十五日朝鮮に渡り大邱、十六日午後九時南大門驛着入京十七、八、九の三日間滯京總督府及び各教會宣教師團等を訪問したる上二十日平壤に向つて出發する旅程なるが同氏今回の來朝は日本に於ける共勵會事業視察のためにして朝鮮に於ける用件も亦同樣なるが特に朝鮮にては未だ各教派を通じて共勵會の設けなきを遺憾とし同氏今回の來朝を期とし同會の設置を圖らん目的なりと云ふ右に就き日本共勵會よりは幹事澁谷兼次郞氏を同行せしむることゝなり京城にてはグール博士並に組合教會の山本牧師等主として斡旋の衝に當るべしと因にクラーク博士は米人中の親日者にして往年明治天皇に拜謁し親しく恩賜に關して來朝し來れる人なり

# ◎日支周遊券と京奉線

日支周遊券に對しては京奉線の北京、西直門驛に於ける同線の割引の設けなく從來之を引換に割引乘車券を發賣せしめて今回同線より京奉線の正陽門驛に至る北京環城支線開通に付き正陽門驛に於ても西直門驛發賣のものと同額賃金にて北京、西直門、正陽門間往復の割引乘車券を發賣することゝなりたるを以て旅客に對しては更に便利を得ることゝなり從來此等に於ては京奉線正陽門驛より北京環城支線を經由する旅客は該割引乘車券を呈示し該環城支線を經由する支拂を要せずして…を得るに至りたるものとす

## 人事消息

▲稻垣工務課長(鐵道局) 保線狀況視察の爲め五日朝の豫定を以て五日より湖南線へ出張
▲川村作吉氏(憲兵中尉) 四日夕入京清光館に宿
▲長崎登氏(釜山觀測所) 四日夕入京天眞樓へ

# 忠南縱橫記(四)

鯨洋生

忠清南道は、昔時の東學黨匪徒の横行等ありて事あり、我討伐軍と戰ひ、東學黨の首魁と爲せし暴徒の出沒を見たるも、今は一般匪徒の抵抗を極め、斯る手合は殆んど影を潜め、其の地方取締も其宜しきを得て、鮮人は道内至る處に見られ日本人の生活を侵すことなく、何れも能く融和し、和親の間に一度地方に入りし者は、昔の如き、公州邑の如きも、日本商人の出店を排斥せし事ありしも、今や却て日本商人を歡迎し、此の地方の人は、他道内に見ても稍多きは竊盜なる辭柄比すべし、尙ほ猶種の犯罪と…道路に非ず、宣も亦敢て同道のみの事に非ずして、此の風習を一新するに非ずんば、日新の間月歩の內、犯罪の原因は皆朝鮮在來の旱魃より來る事を見るは、既往に徵して明なり、且つ歐害の如きも稍にして出版の害を受けしもの僅々二人に過ぎずと。

出城なる、今は公園となり居りて路傍に大典記念植樹の記念碑樹つ、頂上に近く一樓門あり、左右は高き石壁を以てし、樓は此の上に架せらる、鎭南門の扁額あり、門に入つて丁餘、右方松林中の一路を登る、急坂なり、行くこと二丁餘にして松林中の平地に出づ、所謂文祿之役加藤小西兩將の戰勝碑なりと稱する碑あり、碑面磨滅して讀み得ず、別に二基あり何れも加藤、小西の戰勝及び建碑の理由とも云ふべき仰々しき文字あり、殆んど一顧に價せず遺憾なく當時の朝鮮式を發揮せる處は、寧ろ一揆物として面白く、雙建築の手段としても幼稚にて滑稽なり、有力な仰げば一樓閣の松間に聳ゆるを見る、雙心閣と云ふ、麓より仰ぐ時は、半壤の乙密臺に彷彿たり、頭を俯して下坂に左に進めば双樹亭あり、附近眺望頗る雅にして錦江は足下に碧波を湛へ、遙かに忠僚の隣落双峰に集る、洵に天下の要塞たり、李前に朱時烈の選になる双樹亭記念碑あり、就て見るに、仁祖即位の二年李安兵使季适、謀叛して京城に攻め來りしより、仁祖難を避けて此處に來る、双樹あり仁祖日に其の樹に倚りて北望す、一日飛騎來り捷報を上る、仁祖之に因て双樹を封じて通政大夫となせしと、今も仰ぐ可きは亭前に大欅二本あり、之れ通政大夫の樹か、北側は洪北樓、靈隱寺等あるも、先敬ながら急なり

# 南言北語

土耳古皇太子の自殺は病氣の爲だと云ふが▲實際自殺だか何うだか電報簡單にして要領を得ぬ▲が、兎に角巴爾幹方面も之れからだのに太子の自殺は土國のみならず獨墺側にも打擊である▲元來芝居氣の多い土耳古の事だから內で又復一と悶着起つて居るかも知れぬ▲併し土耳古としては誠にお氣の毒千萬だ▲お氣の毒と云へば袁總統も暗殺陰謀に馮國璋、湯薌銘も重なる關係者であると云ふ事であるが▲實際とすれば懷柔に腐心して居た袁總統こそ馬鹿を見たもので馮と湯とはお氣の毒樣とベロリとやつて居るかも知れぬ▲まだ〳〵之れも當てには成らぬ革命黨側から流布した袁總統と馮、湯兩將軍の離間策とも見えぬ事はないからナア▲此方で之れを眞正直に受けて居ると今度の電報がお氣の毒樣と云つて來るかも知れぬ▲討伐軍は後から〳〵と繰出す樣に言ふが先發は最う雲南や貴州へ這入つて居るだの何とも云つて來ない▲イヤ云つて來る事は土人との衝突と掠奪と暴行とである▲官軍が逃げて一系の紊れずではチト約束が違ふ▲之れでは討伐軍と革命軍とが何うなるか判らぬ▲さうなると京城に於ける官軍の代理を努める民軍の本體とは何か▲民意も滅茶々々である▲革命軍に集まる民意が集まるやら▲今度は袁の名案を上げるかも知れぬ▲何さ常識では判斷が出來ぬから此の樣な事になるかも知れぬテ


本品は又復大正四年十二月十五日國產展覽會に於て宮內省御買上の光榮を辱ふせり

東京一番で評判の高い一番賣行のよい數の美人となる化粧料

# ホーカー液

名譽金牌於衛生博

ホーカー液の効

▼色を白くし、キメを細かにし
▼アレを防ぎ艶をよくし
▼白粉下、白粉のトキ水に一番よく生來色白く見ゆ
▼子供衆の肌を丈夫にし男子方の剃刀後、朝夕洗面後によく
▼四季の日ヤケ、白粉ヤケを防ぎ
▼香よく香水代用となし
▼常に缺かさず用ひらるれば毎時爽しき若々しき美顏となる

定價小瓶廿錢、中瓶四十錢、大瓶八十錢 送料內地八錢 滿鮮三十錢 內外到る處の小間物、化粧品店、藥店に販賣す若品切の節は直接本舖宛振替又は切手代用にて御注文を乞ふ 近來僞物品を賣る不正商人あり御注意の上御求の節は本舖へ御一報願上候

本舖 東京和泉橋 堀越嘉太郞商店 振替東京二四一一八番

生徒募集廣告
本科第一學年生徒五拾名
技藝科第一學年生徒五拾名
右募集ス志願者ハ本年壹月貳拾日以降ノ朝鮮總督府官報ヲ見ヨ尚詳細ハ本校又ハ平安南北道黃海道管內各公立普通學校ニ就テ承合スヘシ
大正五年二月五日
平壤高等女子普通學校

胃腸最新藥 十三ヶ國專賣特許
ヂゲスチン

胃腸疾患、食慾不進、病後の恢復期、營養補給の目的にて胎の弱き小兒の發育不良等に常用すれば血液を增し精力を盛んにす、
說明書進呈 東京本町 合資會社 京城 囲城商館

製作品販賣廣告
▲官紗、倭紗、明紬、三八紬、外絹織物各種
▲木綿布團地、白木綿、色木綿、外木綿織類各種
右即賣開始す
大正五年一月二十九日
恩賜授產 慶尚北道機業所

數ある中をM印は特に撰ばれて畏き邊に御買上の光榮を得たる最優良品と御記臆を願ます

三田土ゴム製造合名會社製造
發賣元 大阪唐物町四 飯田商店

東洋ボックス製編上靴 第一號 金參圓九拾錢均一 第二號 金貳圓五拾錢均一
編上及一枚皮深ゴム靴 第三號 金貳圓八拾錢均一 第三號特別製 金參圓五拾錢均一
ボックスカーフ製編上靴及深ゴム靴 金四圓均一
但一枚皮深ゴム靴及莨形編上靴 金五拾錢增の事
東洋ボックス製長靴 長サ一尺一寸 金四圓八拾錢均一 同 一尺三寸 金五圓參拾錢均一

右の均一靴は精選せる材料と熟練せる技術を以て最も入念に調製せし品にして一般實用紳士靴として最上なる事を確信致す 御注文の節は正確なる足型又は寸法と甲の高低御報知あり度し
○定價表御申越次第送呈仕り候 送料一足十五錢
引換廿五錢 朝鮮送料廿五錢引換四十五錢
東京市本郷區東片町九十二 振替二〇五三九 電話下谷一九四四
三倉商會高等靴店

# ◉緬羊の群を訪ふの記 洗浦牧場ものがたり

## (三) 眞晝間獐が停車場に遊びに來る 空に雲雀、野に菫、高唄ふ胡歌よ

元來此の洗浦の高原に、總督府が牧羊場を設けたといふ事は、將來羊毛の自作自給を圖りたい趣旨に出でました事で、又一方には資力の無い爲めに畜牛一頭さへ飼ふ事の能きない細農にも、羊の二三頭は副業に飼へるといふ目論見もあつての事と思ひますが、猶ほまた北鮮地方一帶の鮮人は從來什麼

**貧民=でも防寒用**

に羊の毛皮を用ゐる風習があるにも拘らず、其の供給は全部支那に仰いで居りますので、那麼ことから當所を此處に設けられたものと思ひます。とは松膽王任のはなしであつた。洗浦の高原は、南北一里、東西二里の大曠野であれば、牧場としては實に申分無き所であるが、一つ遺憾なのは雨の屢々襲來する事である。その大正三年の降雨日數は七十四日であつたけれ共、大正四年中は實に百四十五日の雨天を見たので、これには何うも困るとの事である。雨の原因は此地が由來半島の脊梁を爲せる

**分水=嶺上にある**

爲めに、江原道方面から來た水蒸氣が、急に冷却する爲めであらうと云はれて居るが、雨が降つて困るのは第一緬羊を放牧するに不便であり、且つ又雨が寄生蟲の媒介を爲す事である。殊に洗浦は夏の七月が雨期になるので乾草の刈入れに困難するといふことである。其處で今年は、コンクリートと煉瓦の圓筒型なるサイロー式貯草倉庫を作り約十三萬貫許りの秣を貯藏したいといふ計畫もある。また洗浦高原の野草はその種類が頗る多く禾本科萱科各十二種、百合科十一種もあるが毒草も亦尠くない。併し緬羊の放牧を何處でも勝手に行ふといふ事は、野草の保護によろしくないとて、毎年の

**放牧=區域は區別**

してある。面白い事は、此の地に猪や山羊の野獸類が多いために、往々それ等の寄生蟲たる羊蛭の類が肝臟な緬羊の鼻を侵すことである。何分にも昨今洗浦では、晝の日中に停車場傍の野原を獐が驅け廻り、また臘末は八頭伴れの大野猪がのそ〳〵停車場を訪問したといふ珍談もある位で、うつかりすると緬羊が猪に化け相な土地である。緬羊は毎月一回あて蹄の歪みを直してやる位のもので、格別の手入も要らぬといふ事だが、御馳走には時々大豆などの濃厚飼料も與へて居る。吹雪の寒い夜などは蒙古の曠原などでも羊を天幕内に入れる習慣があるので、洗浦の牧羊場にも防寒の用意が出來て居る。由來支那人は遊牧の民であつた爲めか其の

**牧羊=の巧みな事**

は到底内鮮人の眞似も能きないほどで、洗浦にも一人滿洲人の羊飼ひが居るが、彼れは毎日内鮮人の牧夫に巧みな牧羊の手心を敎へて居る。彼は此處の野原が毎年夏になると丈餘の草莽に繁るので那麼處に羊を伴れると大事な羊毛が傷むといふやうな事まで注意して居る。打ち見る處、昨今冬枯れの洗浦高原は、唯だ蕭條たる嚴冬の景色に閉されてあるけれ共、追ひ〳〵支那人の大好きな雲雀が空高く囀り出し、野にはまた、白い南山

**菫が=咲き出した**

ならば、牧羊の支那人は何を思ふであらうか、彼は淺黄色の縞入れに、脚まで纏を卷き立てた革靴を穿いたまゝ、癇高い聲でゆるき音律の胡歌を歌つて居る——何の屈託も無さ相な顔で、高原の生活を樂しみ乍ら。

節分=四日京城神社の參拜

# ◉露國太公殿下 浦鹽へ

## 特別急行列車運轉

露國特派大使ミハイロウイッチ太公殿下の爲め東滿鐵道會社は長春浦鹽間に特別急行列車を運轉することとせり長春以後の旅程は長春發哈爾賓着停車十分にて浦鹽に向け發車し浦鹽着、東淸鐵道長官、鐵道旅團長急行列車にて奉迎の爲め長春に出張せり(哈爾賓特電)

# ◉獨探豫審

## 元神戸警署長召喚

神戸の獨探嫌疑者瑞典人フリッツ、ツエーフエルド及び瑞典人ゼームス、ブロックに對する豫審進捗し二日豫審判事は元神戸居留地警察署長瑞典人ヘルマンド、ロデックを參考人として取り調べたり(大阪特電)

# ◉手懸りは一枚の風呂敷

## 朝鮮人大阪にて强盜殺人を働く

大阪東區槍屋町二丁目三十一番地八百屋商佐々木芳松(五七)が昨年十一月十三日午前一時頃何者にか絞殺され爾來所轄東署にては府警察部と共に犯人嚴査中なりしが此程に至り犯人石井友吉事

▲實は朝鮮慶北道 漆谷郡架山面倻下洞十五統八戸李敎賢長男李鳳和(二五)の所爲と判明せり石井は

諸にて奉公口を求め前記被害者芳松方に雇はれたるが芳松方にては下關市三輪町と自稱し居れる事を東署刑事が探知し三輪町に就き取調べたるも斯かる姓名の者なきより愈々疑ひを生じ石井の所持し居たりし所持品の中に住友銀行下關支店の

▲風呂敷一枚あり 之を手掛かりに刑事は下關に出張し捜査せしに右の風呂敷は昨年十月廿九日夜下關市圖田住友銀行員吉井勘一郎の窃取されたるものなる事判明すると同時に石井とは全くの僞名にて實は前記の鮮人なる事判明せり同人は現在郷里には

▲妻子あり兩親も 在れど借金の爲めに郷里に居られず釜山下關地方を徘徊しゐたる上大阪に來り

たるものにて去る二日午後三時西區南堀江下通四丁目うどん玉卸屋北橋秀松方に李上村と僞名して雇はれゐたるを突止め漸く逮捕し嚴重に取調べし所遂に逐一自白するに至れるものなりと(大阪支局)

# ◉鴨二萬羽

## 一羽僅かに三錢

黄海道海州郡青龍面龍媒島の一特產物たる鴨は毎年冬期十二月頃より鴨の群集夥しく之が捕獲の爲め同島住民にして本年度甲種狩獵免狀所持者十一名が本月一日迄の捕獲數實に二萬羽を算するに至り其の販路は海州郡各面及び延白郡地方にして一羽三四錢にて販賣し新年に際して約五百羽を仁川に搬出し一羽十錢内外に放賣し此の價格七百圓に達せりと而して龍媒島に群棲せる鴨は野鴨とは異なり其の味美ならずして肉に多少の異臭を放ち食用に供する外概して燈火用油を製するものにて之れが捕獲數多かりしは近年稀有なる暖氣續きにて海上氷結せざるに因るも同島一種の特產と稱するを得べく且つ同島民の生計に資する頗る大なりと

# ◉百四十萬圓隱匿

## 嫌疑者收容

百四十萬圓隱匿の嫌疑者獨逸銀行支配人リツトル、ラード、ウコウキン等八名は捕虜として四日午後善阪捕虜收容所に收容せり(大阪特電)

□お化け 節分の四日、本社を訪問せる松葉亭連の變裝

▲支拂に困りたる より所

昨年十一月中利根川丸にて下關より來阪し南區九左衛門町旅館吾妻館大浦マサ方に投宿し八日まで滯在したるに持の衣類數點を吾妻の番頭上岡周平の世話にて南阪町高宮平次郎方に入質し漸く支拂をなしたる上岡平の世

# 朝鮮一

## 各道第一部長の御自慢ばなし(二)

### 島、棉花、カリタコ、竹

全南第一部長 佐藤重治氏談

一道管内で島の數の多い事は恐らく全南が第一であらう一口に八百八島と言ふが其數は未だ充分精確な調査が出來てゐない其内で一番大きな島は濟州島で尚其他に珍島、莞島、突山島などあり無人島の數を加へると全く無數にある産物から行けば棉花は正に朝鮮一だ 大正四年の收穫で見て千四百萬斤百四十萬圓と稱せられ他道に比類は無い大正四年の作付二萬四千町歩で前年に比し六千町歩を增し明年度に於て更に八千町歩の作付を增す豫定だ木浦市街を中心として方七八里の地點に特に發生するカルタコと云ふ虫が住つて餘り芳しくもないが朝鮮一の名を失はぬ竹は又朝鮮一と稱していいだらう自然林もあるが道地方費から一反歩七八圓の補助を與へて獎勵し東拓の竹林亦六七十町歩の成績頗る良好である敢て朝鮮一とも言はぬが海岸丈けに海產物も二百萬圓許りある寺刹には白楊、華嚴、松廣、大興、康安の五大寺があり赤壁、勿染の奇勝は道内の奇觀である。慶南、全北三道の境を爲す智異山の大赤朝鮮一と稱する事は出來ないが植物學研究上忽諸に附すべからざるものがあると云ふ事だ

### 金剛山、蜂蜜、椎茸

江原道第一部長 武藤金吾氏談

何でも構はぬ兎に角朝鮮一を擧げろと言へば江原道には其名かまびすい天下の金剛山がある此事は我々が駄辯を用ふる必要もない程に鳴り響いて 嘗に朝鮮一と言はず敢て東洋一と言ふをも憚らない。蜂蜜など と言つても餘り薫しく は無いが年收四萬石 亦朝鮮一たるの名に反かぬ。然し今計畫して居る椎茸栽培は十年後に於て正に朝鮮一輸移出額百萬圓以上たらしめんとしてゐる元來椎茸は東洋でも日本と朝鮮との特產物で朝鮮では濟州島を主とし其他の各地にも產してゐたが江原道は到處栽培可能の素地を持つてゐて天然採取のものゝみでも年々三千五百餘貫を採つてゐた若し多少の人工を加へなば馬鹿に出來ぬ副業とならうと云ふので昨年九郡十八箇所に母體を採らせて貰ひ之に農商工部から胞子を貰つて注射する筈だが尚一般に農家一萬九千戸の一割で一戸平均九百本の母體を使用すれば乾燥椎茸十萬貫を獲られ 一貫目六圓と見て輸出額百七十六萬圓に上り 其内に純益金七十七萬八千圓を含むと云ふ是れを十年の後に實現せしめる豫定だが其時は朝鮮一の椎茸山が現出する譯である

# ◉龍山消防隊の假設消防

龍山消防組にては四日正午より龍山者の池の邊りたる廣場にて消防演習ありたり龍山分隊よりは矢野分隊長有元伍長出張し集合したる組員六十三名は小頭の指揮の下に喞筒及び水管車の操法を爲し次いで負傷者の救護方法及び假裝の消火演習をなし終つて午後三時一同整列の上矢野分隊長の人員器具の點檢あり夫れより聯合演習に移り演習中俄かに龍山橋附近に失火ありたり(但し組員には祕密の中に假設的に小さき小舎掛けをなしたるもの)とのことにて分れゐたる一部二部の兩部隊は池畔より約五丁を離れたる龍山橋迄急遽驅付けて消火に努め即時鎭火せしめたり此日右の實行演習の現場には多數の觀覽者ありて消防隊の機敏なる活動を嘆賞しゐたり終つて矢野分隊長より一場の訓示及び講評ありて散會したるは午後五時なりし

# 立春の節

五日午後零時十四分立春の節に入ります、日も月も巡行の工合によつて整然と節繰りくめの始め終りは揃ひませぬが、タイム即ち季節は些も遲れたり進んだり謬數が生じはしませぬ、以て放膽き意味から云へば立春の節入が眞個の正月元日と云へる理由です、さて客臘來の氣候は前古稀なる暖かさで今年こそ名詮そのまゝの春なれであります、去年は祝元日に沖繩の邊りに日蝕が見えて縁起でもない……なぞと擔いだ者もあつたさうですが其の論法で行けば今歳は元日と節分がお揃ひで立春が眞の春の陽氣を來て御に三拍子揃うた吉左右重疊でしやう、幹枝は壬申に九星本命は六白で先づ謂へ向きの結構な立春であり升

# 朝鮮短歌會

京城を中心として朝鮮各地に於ける短歌界の次第に盛んになつて行く氣運を切めて取纏めて中心ともなる事が出來れば左の順序に依り大會を催ほす事とした敢て同好者に告ぐる次第である

規

▲會場 パコダ公園内カフェー、パゴダ
▲開會 十一日紀元節當日午前十時
▲會費 金五拾錢(午餐其他實費)
▲投稿 九日正午締切、京城日報編輯局内朝鮮短歌會幹事宛一人五首限り金拾錢印紙又は郵便切手に限る
▲順序 席上五題、互選の上午後は批評乃至懇談 午後四時閉會
▲晩餐 (會費實費内外) 會後有志のみにて晩餐會を催す

# ◉掛小舎九戸燒く

高陽郡龍江面倉田里市場の雜貨商金泰根の掛小舎より四日午前六時頃發火し掛小舎九戸を全燒し半燒二戸を以て同七時半頃鎭火せしが出火と見るや西廉、東幕、麻浦等の消防組出動し消防に努めたり燒失せしは主として雜貨其他の商品にして見積損害額約三千百二十圓位なりと原因は金泰根の吊洋燈破裂したるものにして金泰根は其際顔面兩手等に火傷したりと

# ◉大工道具を窃取

横須賀生れ當時龍山漢江通り十一番地居大工藤文二郎(三三)は一月十九日午後七時頃附近の稲村某方家人の不在中を見濟まして侵入し大工道具外十四點價格十圓を窃取し同夜之を漢江通りの中村質屋に六圓に入質し其の金にて飲酒せること發覺し取調べの上檢事局へ送られたり

# ◉電柱にぶつかる

四日午後零時五分頃京城電車九十一號電車が鍾路方面より龍山に向け進行中を目蒐けて乘車せんと電柱にぶつかりて打倒れたる男あり黄金町三丁目の鍋商福田久平(三五)といふものにて日の出町に二針を縫ひたる裂傷及び胸部に輕微の打撲傷を負ひたりと

リウマチス、神經痛と せんきんきせ悩む人は 神痙湯

本劑は! せんき リウマチス 神經痛 子宮 血の道 ヒステリー 慢性胃腸に 効験顯著なり

彼是と迷ふ事無く 神經痛が僅の神痙湯を試みよ現に烈しき痛く程効く靈藥神痙湯で夢の如く治り又は頗る難治のリウマチスや、數年痼疾の疝氣で悩みし方々が神痙湯の連服で漸次快方に赴き遂にはスツカリ快癒し嬉しさの餘り懇篤なる感謝狀(現在保存す一般の閲覧に供す)を送らるゝ實例も尠からず若し不幸にも是等の病に悩む人あらば輕症と難症の論なく即刻試みよ神痙湯は家傳の秘方藥なるも今や全國各藥店に有り

こんな徴候 胸、腹、手、足、肩つり、腰、膝、臂、九等が時々、痛み、しびれ又は、彼處此處と移動し、何となく息苦しく胸つかへ、差込み、飲食進まず、腹張り、溜飲、便秘又は下痢、過ぎ逆上、血眼、進む氣、耳鳴り、頭痛、目暈、寒氣、顔重く、肩凝、腰冷へ、痛み、力なく足氣、蠢から腹、夜眠られず、根氣薄し、ぎくゝく肥滿、惱あしく、氣分成し、易く、物事に、疝氣、頻り、手足の浮腫等、胃腸及婦人病より起る痛み、諸に悩む人は片時も早く神痙湯を試みよ

價 一週間分六十錢 二週間分一圓十錢 三週間分一圓五十錢 試用分十錢

本舗 名古屋市東區京町二丁目 荒川長太郎

代理店 京城南大門通 新井藥房

満蒙處分論 陸軍少將クロパトキン將軍原著 日本大井包高譯 京城日報代理部

クスリはホシ 製劑四十餘種各特約店にあり 東京京橋 星製藥株式會社

京日案内

◉普通 一回前金三十錢(無割引) 匿名一回毎に金五錢增

▲恭席 本町四丁目 百卅三番地 川上恭席 330

◉新聞配達人 至急募集す 身體强健にて希望者本人直接來談 新龍山漢江通 町田新聞部 327

◉古本買受 御報參上 京城本町二 電話二五二七 振替二二七 ウツボヤ書店 318

◉看護婦募集 希望者は履歴書携帶本人來談あれ 仁川 小倉病院 320

外交員採用 月給十五圓以上希望者履歴書携帶本人來談 京城花園町一武二番帝國圖書普及會朝鮮支部 321

▲讓店 賓れ行良好なる有望菓子舗且居住に最便依都合全部共讓る希望の方は電話二九四九番へ 323

◉給仕募集 十六歳小學卒業以上 內要確實保證人午前履歴携帶來談 旭町二上る電一二五〇朝鮮雜誌社 324

◉讓店 場所本町二丁目の目拔の通り希望者至急來談◉京城黄金町三丁目(櫻井町曲り角)平野古物店 316

◉古本 買入誠實 御報參上 京城本町一丁目(明治町筋) 電話二六三六番へ 野村書店 319

◉古本 品揃底に付無比高價買入 御一報次第即刻參上◯京城本町四 電話二七八一番へ 晋肆郁書堂 315

▲園菲大會 會費一人一圓 會場 本町四ノ一三 二月六日正午 川上恭席 328

◉番外 一回前金六十錢(無割引) 匿名一回毎に金五錢增

夜學 生募集 算術 代數 幾何 三角 數 (英數學) 敎師は中等敎員免許狀所有 明治町二丁目 小川旅館内 英漢數所 331

開業 新龍山漢江通(東本願寺下) 日本赤十字社救護看護婦長 電話三二六 產婆鹿川わき 生計不如意者に限無料御依頼に應す 329

春川 忠州及田舍行駄馬牛車取扱 ◉原州式見小一郎◉忠州二軒谷運送店 ◉春川桑本運送店 ◉京城鍋路五丁目 電話三二九一番 酒井運送店 309

京城日報 初號より四十二年末迄取揃へ相當代價に讓受たし (住所姓名在社)

京城南山町二丁目 松岡醫院 結核 梅毒 及 注射 古賀液の 入院隨意 電話六七五番 261

和洋御料理壽司 仕出しのんき 祝儀並精進料理 京城本町一丁目府廳横(元梅鉢) 電話二四九五番 279

妊婦產婦 御預 致升 ▲材料精撰◯御中付次第速達仕候 ▲產安全出來 院案内書送 中込次第入 南山町二の卅五△電話取次一三九 京城產養院 299

質 京城黄金町二丁目 (永樂町停留所北入) 堀佐營業所 電話六三九番 313

…に據れば…しは牛心臺炭坑襲撃事件に關係あり…は其使嗾者の一人なるが支那側は… ◉京畿貯蓄物狀況 京畿道管内二府二十郡に於ける貯蓄物品狀 二萬二千三百九十五石粟四十石大豆 六萬…二百十石小豆八十二石稗三 證左として誠に喜ぶ可く尚ほ又同月末現在の勤儉貯蓄狀況を聞くに組合… 金額に於て五千九百五十四圓四十錢 ▲依然伸び勝も ▲目的抵入手 …三十三番地木山伊太郎方奥座敷に於て客月二十八日午前五時頃數名の男… 町井上兵藏(六十)同… (二八)の四名を珠數繋ぎとして引致取調ぶるに揃ひも揃ふて賭博常習者な… 十圓位に判決を申渡さる

# 千生瓢 (116)

須藤南翠作 筒井年峰畫

## 忠烈（二）

勝家は呵々とうち笑つた。

『此の幣束の馬標は、七十餘箇度の戰場に押立て、未だ一度の敗を取らぬ、勝家が名譽の馬標ぢや。まつた我が姓名は、鬼と稱ばれて、天下に聞えた英傑の姓名、今一天下に誰るべき者はないわ。其方日來の寵愛に狎れて、無禮なる事を申せば、只今是れにて勘當致すぞ』

言掛つて顔を背向けた。勝助はいつかな怯まなかつた。

『仰せまでもおざりませぬ。金幣束の馬標を見たばかりで、弱敵は敗北し、鬼柴田の御姓名は、聞いたばかりで氣落ちをする程、天下に匿れなき名將におはします。其有名ある英將が、彼の大軍と一戰して、雜兵輩卒の手にかゝり、金玉の御身を損じ給ふ事おさらば、返す〳〵も口惜い次第おざりまする。口賢う申すやうなれど、先づ御氣を鎭めて聽し召されい。近き例しは、惟任日向守光秀おざりまする、山崎の退き口遁かりしに依つて、小栗栖に於て地下人共の手にかゝり、口惜しき死を遂げられておざりまする。申すまでもおざりませぬ、齋藤内藏助の諫めに隨つて、龜山なり、坂本なり、便宜に依つて引き揚げられなば、敵を引き受け、潔よく一戰して、心靜に生害を遂げ、亡骸を取除す便は、幾千もあつた事と存じまする。さすれば、亡き後までも、敵に物をば思はせたでおざりませう。之に就いて勝助若へまするに、例に引くは憚り多くおざりますれど、大搭宮は、金枝玉葉の御名をさへ、村上彦四郎義光に詐させられ、後に建武の大功を奏し給うたではおざりませぬか。不肖ながら勝助、忠義の志に於ては、決して彦四郎に劣らうとは存じませぬ。拵て、御馬標、御姓名の御許容あるやう、強て歎願申しまする』

断々と志を決した勝助が忠諫には、情に脆き英雄の本質とて、勝家は感涙の滂沱たるを覺えた。流石に弱い語も出ず悄然として告ぐるやう

『勝助、其方の志し、勝家何とて惡しう聽かうぞ。箇程の忠臣を扶持した勝家が面目、死後までの譽と存ずるわ。但し命傾き運盡きたる勝家、斯やうに忠義の武夫を見捨て、獨り立ち退く心は持たぬ。立ち退いたとて、兎も角もなるではなし、所詮其方と一緒になつて、同じ枕に死なうと思ふぞ』

『何と仰せられまする』と、勝助は涙に輝く雨眼をくわつと瞪らいた。

『豪氣第一の鬼柴田と稱ばれた殿、何故其やうに言ひ甲斐ない御心には爲らせられました。また例を引くやうにはおざりまするが、木曾殿は、今井と一緒にならうと思し召しなればこそ、敵に首を渡されておざりまする。殿も某も、いつまでか長く仕つる者ぞ、僅の別れを惜しませられ、千歳の悔を貽させらるゝは、名將の末路とも存じ申さぬ。恐痴な事仰せられな。いかにや殿』

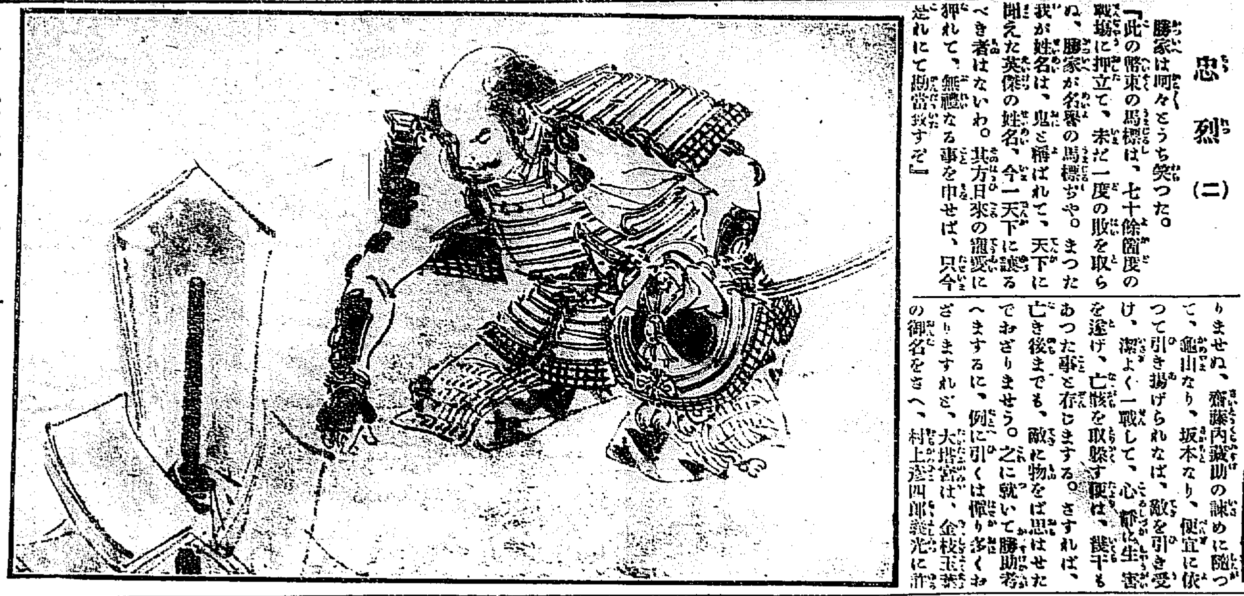
勝助は一期の意氣を吐いて、侃々として苦諫した。その道理ある諫言には、勝家も拒むべき辭はなかつた。泣く〳〵馬を下つて、鎧の上帶を解き始めた。

勝助は謹んで主將の甲冑を一著した。勝家は勝助の具足を身に著ける時、涙ながらに之を押戴いて、欣然として著用した。此刹那の情懷を見たものは、皆この眞情に富む名將の馬前に、屍を曝さぬのを口惜しく感じたのであつた。

勝助長照は、名譽ある勝家に身を固めて、その光明赫々たる金の御幣の馬標を讓り受けて、英氣颯爽として四方に睨いた。引き別れ行く主の後影を見送りながら、弟庄兵衞を呼び出した。

『某は御苗字を賜つて、兄久左衞門殿と共に死なう。其方は匠作の御供して、御先途を見屆けた上、兎も角もなされよ』と申し渡した。

『過速はあれど、やがて逝く身おざりまする。仰せの儘に隨ひませう』と庄兵衞は別れを告げた。柳ケ瀬の峻山は、この主從同胞の爲に、天に知られぬ濃霧が立罩めた。



## 兒玉大將の友誼（承前）

於東京 三枝光太郎（寄稿）

七、由來、桂兒玉兩大將の徑路は頗る相似たるものあり、例へば明治十年西南戰爭時代には、兒玉大將は壯齡正に二十六歲で一個の中隊長として熊本城に籠城し其後、大隊長、聯隊長、師團參謀長、旅團長等を經、更に累進、陸軍大學校長、陸軍次官第三師團長となり、尙ほ三十一年、臺灣總督に任じ、次で第四次伊藤内閣の陸相となり、又第二次桂内閣の内務大臣となり、或は文部大臣を兼ね、三十六年、日露間の低氣壓、漸く高まるに及ぶや、參謀次長に轉じ次で彌々兩國干戈を交ふるや、進んで滿洲軍總參謀長となり、其間恒に臺灣總督の職を去てず、其後、無程參謀總長に榮進せしは、世間周知の事實なるが、若し同大將をして尙ほ依然存命ならしめば、既に幾たびも宰相の印綬を帶ぶべかりしことは萬衆の等しく確認する所である。

八、又桂公も、明治十年頃は、未だ漸く陸軍大尉で、方に獨逸に留學中に歸し、後、同十六年、公自から東道主人として、大山元帥並に川上乃木等の諸將十數名を伴ひ、軍事視察として歐米に赴きしが、當時兒玉大將も亦其の選中に在り、一行歸朝の後桂公は大佐で參謀本部の管西局長（川上子は管東局長）となり、次で陸軍次官、第三師團長、臺灣總督、陸軍大臣等を歷、更に同三十四年以來、大命に奉じ、自から内閣を組織すること前後三回にして、日英同盟日露戰爭、朝鮮併合等、皆桂内閣の内に其の實行を見たるなり。

九、蓋し桂○公○は○人○傑○の○宏○器○にして○兒○玉○大○將○は○豪○岸○にして○精○悍○。倶に絕倫の人たるは亦世間周知の事實、而して桂公は弘化四年丁未の產。兒玉大將より長ずること正に十歲にして、大正二年享年六十七歲で即世し、又兒玉大將は嘉永五年壬子の生で、明治三十九年五十五歲にして、白玉樓中に入りたるなり。

十、御承知の如く、夙に我が陸軍の兩雄兒として麒麟兒の稱ありたる其一は川上桂の兩將軍なりしも、其內、川上大將は夙くも明治三十二年に五十五歲にして薨去し、尙ほ他の一は兒玉大將及び大將と同齡なる寺內將軍（朝鮮總督）にして、今や只り同將軍の健在にして、宛然朝鮮王たるの觀あるに止まれり。

十一、嗚○呼○翻○手○作○雲○覆○手○雨○、紛○々○輕○薄○何○須○數○、君○不○見○管○鮑○貧○時○交○、此○道○今○人○棄○如○土○とは唐詩選中の一節、●杜甫の所作かと憶ふが、人情反覆、●閑寂●離●盛●なる時は門前市を成し衰ふる時は門內雀羅を張る、東西古今となく其揆一なり、殊に歲○寒○知○松○柏○之○後○凋○。吾等は今桂兒玉兩大將の前言往行に視て、我邦亦必らずしも管仲鮑叔なきに非ざるを喜ぶ次第である。

十二、既記の如く、明治三十九年七月、兒玉大將の腦溢血の爲に、俄然易簀するや、九重震悼、天下識ると識らざるとなく、惜せざるなく、甚くも明治大帝は特に勅使を同大將の邸に遣はされ、同大將の爲め『夙に○身○を○軍○務○に○委○ね、力○を○要○職○に○竭○し、新○附○の○民○に○澁○み○て○は○治○績○大○に○舉○り、帷○幄○の○謀○に○參○し○て○は○武○維○ね○隆○し、茲○に○溘○亡○を○聞○く。曷ぞ悼惜に勝へん云々』の勅語と共に祭資料金五千圓を下賜せられたる事は、讀者諸氏御承知の通りである。

## 短文募集

短文を募集す、行數約三十行たること、或は趣味に富める文章も可なり又或は高踏的文章も可なり要は讀者をして共鳴せしめ得るに足れば可なり。每日募集、每日發表。京城日報編輯局『短文係』宛

## 商況

大阪三品

大阪期米特電（四日）

七月限 二九六〇 二九六〇 ▲四日 ... 九五、五〇 ... 八三、〇〇

一月限受渡代金を損供せざりし買方仲買人岩谷は今日除名せらる

▲後場の商戰

▲正米暴騰入電


國民新聞創刊二十五年記念出版

蘇峰文選

總クロース上製千五百頁 定價三圓五十錢 郵稅（內地書留小包料金三十錢 臺、滿、樺、同上五十錢）

謹告 國民新聞愛讀者優待本書の特價提供は去月中を以て結了二月より御注文は一切定價通り申受候 右不惡御諒察願上候

發行所 京城大平通一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部



百萬金を投ずるも健康は購ひ難し

蜂印香竄葡萄酒は

朝夕一杯宛にしてよく身体の健全を保ち精力の增進を來す

何となれば無限の滋養と其美味とはすべて血となり肉となり力となる

內外國博覽會 金牌賞牌 受領 二十四個

發賣元 東京本町 近藤利兵衛



仁丹

食後に仁丹飲めば

胃腸强健、誰樣も缺さず召上れ

（四季容器寫實圖）

金言 飲食を節せよ然らば汝は健康なるべし（フランクリン）



國產 煙草代用

森永ミルクキャラメル

「安心して食べられる菓子」

ニセモノに御注意の上此商標ある森永ミルクキャラメルの御愛用を乞ふ

ポケット入 大金十錢 小金五錢

東京 大阪 森永製菓株式會社



## 新刊書御案內

| 書名 | 著者 | 定價 |
|---|---|---|
| 日本歷史通覽 | 高桑駒吉 | 四、〇〇 |
| 明治文明史 | 小林鶯里 | 二、五〇 |
| 改訂倉庫論 | 小林行昌 | 二、〇〇 |
| 肥料的麥作改良法 | 鈴木 | 一、六五 |
| 家庭衛生治療と調劑 | 河合 | 一、八〇 |
| 電線製造法 | 米一郎 | 二、〇〇 |
| 敎育の革新 | 谷毛訓鳳 | 一、三〇 |
| 佛語時の用法 | ジュブスケ | 六〇 |
| 我が書翰 | 五十嵐力 | 六〇 |
| 英文書翰集 | 駒井鵞南 | 九〇 |
| 現代美文選集 | 窪田空穗 | 六〇 |
| 朝鮮の金鑛 | 野口長作 | 一、〇〇 |
| 新式初學作詩法 | 小井露堂 | 七〇 |
| 安心錄 | 齋藤文雄 | 七〇 |
| 宇宙（縮冊） | 三宅雄二郎 | 一、五〇 |
| 從軍三年小敵大敵 | 遠川亨耳 | 一、三〇 |
| 禪心錄 | 近重 | 一、〇〇 |
| 新譯西國立志編 | 栗原古城 | 一、〇〇 |
| 日蓮 | 村上浪六 | 七〇 |
| 野心論 | 澤柳政太郎 | 一、二〇 |

京城本町 電話二〇八六番 大阪屋號書店 振替京城一五七三



## 日本郵船仁川出帆

○大連、秦皇島行 淡路丸 二月十八日 正午出帆
竹島丸 二月十二日 正午出帆
高砂丸 二月 日 正午出帆

仁川海岸町一丁目 電話十番 堀回漕部

## 大阪商船仁川出帆

○外國航路（芝罘大連航路を除く）同航路旅客の御申込は五分引を以て連絡切符發賣仕候

○群山、木浦、釜山、長崎行 ▲は長崎より神戶、大阪行
大智丸 二月十五日 午後五時出帆
吉辰丸 二月九日
須磨丸 二月十二日 出帆
×安東丸 二月九日
▲城津丸 二月十七日 午後二時出帆

○大連直行 安東丸 二月五日
城津丸 二月十三日 正午出帆

◉群山、關門、神戶、大阪行 大智丸 二月五日 後五時出
溫州丸 二月六日 後五時出

×△○群山、釜山、橫濱行 チョイサン丸 二月十日
潮州丸 二月十九日 午後四時出帆

○大連直行 ×潮州丸 二月十四日
△チョイサン丸 二月五日 正午出帆

○清津、浦潮行（元山出帆） 久地丸 二月十五日
臺北丸 二月八日 午後二時出帆

○上海、基隆、打狗行（大連出帆） 交平丸 二月十一日
新高丸 二月十六日 午前十時出帆

御注意 ○朝鮮鐵道及南滿洲鐵道會社との聯絡運輸 ○×印は一等客扱

仁川切符發賣所 大阪商船會社仁川支店 電話一二〇番 二五〇番
京城切符發賣所 內國通運會社京城支店 電話七〇八番

## 尼崎汽船仁川出帆

○群山、木浦、釜山、下關、神戶、大阪行
秀吉丸 二月九日 後四時出帆
大有丸 二月十二日 後四時出帆
神代丸 二月十五日 後四時出帆
蛟龍丸 二月十五日 後四時出帆
君が代丸 月 日 後四時出帆

仁川海岸通二丁目 電話五十九番 高杉回漕部

## 朝鮮郵船 出帆

鐵道及外船と荷客連帶輸送の便あり、詳細は本社、支店、出張所、代理店、荷客取扱店に御照會 京城南大門驛前 京城荷客取扱店 松原運送店（電話二七〇）

全羅丸 京畿丸 黃海丸 咸鏡丸 二月十二日 二月廿二日 二月十六日 二月六日（門司より釜山各港寄港城津迄） 釜山發
穩城丸 昌平丸 鏡城丸 二月 日 二月十一日 二月七日（元山より各港經由雄基行） 元山發
永興丸（北久浦、五里浦行又は長崎延長） 每月廿八回 元山發
薈德丸（甘浦、九龍浦、浦項各港寄港鬱陵島行） 二月五日 釜山發
江陵丸 襄陽丸（長生浦、方魚津寄港） 每日 釜山（浦項）發
三浦丸（長承浦、三千浦、露梁津、晉州、古今島寄港） 二月八日 釜山發
海州丸 統營丸 巨濟丸 慶寶丸 每日 釜山發
順天丸（各港經由麗水行、麗水より釜山行） 三日目每日 木浦發
慶興丸（各港經由濟州島行 西廻） 二月五日 木浦發
公州丸（南多島海列島行 月三回） 二月十一日 木浦發
公州丸（各港經由濟州島行 東廻） 二月七日 木浦發
全州丸（海州龍塘浦經由 鎭南浦又は白翎島行） 二月五日 仁川發
江原丸（芝罘、大連、青島行） 二月五日 仁川發
麗水丸 晉州丸（各港經由木浦行） 二月十二日 二月七日 仁川發
錦江丸 南陽丸（江華島、南陽、海州行） 每日午前 仁川發
平安丸（長山串、大黑山、木浦、門司、若松行） 二月 日 群山發

## 汽船釜山出帆廣告

○門司、神戶、大阪行 立神丸 二月八日後五時出帆
○元山、清津、浦鹽行 立神丸 二月十七日後十時出帆
○門司、神戶、大阪行 小倉丸 二月十五日後五時出帆
○元山、城津、浦鹽行 小倉丸 二月 日後十時出帆
○元山、西湖、新浦、城津、清津行 第三琴平丸 二月十九日後六時出帆
○門司、宇品、神戶、大阪行 第三琴平丸 二月十 日後六時出帆
○佐須奈、嚴原、壹岐、博多行 天眞丸 每月二日九日十六日廿三日 一日廿六日 午後十時出帆

釜山辨天町 本船取扱店 大池回漕部

## 共同汽船仁川出帆

朝鮮總督府命令航路 芝罘、大連行 第六共同丸 二月六日後二時入 二月八日前九時出
朝鮮鐵道主要驛にて荷客通し輸送取扱仕候 大連にて青島行定期船に接續

城津、清津、浦鹽行（元山出帆） 第一阪鶴丸 月 日後九時 月 日出港
西湖津沿岸各港を經て雄基行 第三共同丸（元山出帆） 月 日前八時 月 日出帆

阿波國共同汽船株式會社 本町一丁目（電話一〇八番）
仁川代理店 山下回漕部 榮町（電話二四〇番）
元山代理店 田口回漕部
京城取次店 南大門（電話二六八、二〇一七） 河村運送店